

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の2第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年1月31日

【事業年度】 第15期(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

【会社名】 株式会社オークファン

【英訳名】 Aucfan Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 武永 修一

【本店の所在の場所】 東京都品川区上大崎二丁目13番30号

【電話番号】 (03)6809 - 0951

【事務連絡者氏名】 執行役員 濱田 淳二

【最寄りの連絡場所】 東京都品川区上大崎二丁目13番30号

【電話番号】 (03)6809 - 0951

【事務連絡者氏名】 執行役員 濱田 淳二

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 1 【有価証券報告書の訂正報告書の提出理由】

当社は、連結完全子会社である株式会社SynaBiz（以下、「当該連結子会社」といいます。）において2022年9月期を含む複数事業年度に渡って不適切な取引及び不適切な会計処理が行われていた疑念があることを認識いたしました。そのため、2022年10月21日に外部の弁護士及び公認会計士により構成される特別調査委員会を設置して調査を進めてまいりました。

その結果、2023年1月13日に同委員会より調査報告書を受領し、当該連結子会社における架空取引における収益の過大計上及び費用の繰延べ、並びに、当社における収益の過大計上及び収益の先行計上、費用の繰延べ等の事実が判明しました。

このため、当社は、過去に提出済みの有価証券報告書等に記載されております連結財務諸表及び四半期連結財務諸表で対象となる部分について訂正することにいたしました。また、訂正に際して、過年度において重要性がないため訂正を行っていなかった他の未修正事項の訂正も併せて行っております。

これらの決算訂正により、当社が2021年12月23日に提出いたしました第15期(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)有価証券報告書の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき、有価証券報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、訂正後の連結財務諸表及び財務諸表については、監査法人アヴァンティアの監査を受けており、その監査報告書を添付しております。

## 2 【訂正事項】

### 第一部 企業情報

#### 第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

3 事業の内容

4 関係会社の状況

#### 第2 事業の状況

2 事業等のリスク

3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

#### 第4 提出会社の状況

4 コーポレート・ガバナンスの状況等

#### 第5 経理の状況

1 連結財務諸表等

2 財務諸表等

監査報告書

## 3 【訂正箇所】

訂正箇所は\_\_\_を付して表示しております。

なお、訂正箇所が多数に及ぶことから、上記の訂正事項については、訂正後のみを記載しております。

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### (1) 連結経営指標等

回次	第11期	第12期	第13期	第14期	第15期
決算年月	2017年 9月	2018年 9月	2019年 9月	2020年 9月	2021年 9月
売上高 (千円)	3,656,420	5,863,720	<u>6,536,525</u>	<u>7,437,424</u>	<u>8,384,968</u>
経常利益 (千円)	302,824	423,540	<u>651,556</u>	<u>803,414</u>	<u>621,226</u>
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	218,980	223,913	<u>306,620</u>	<u>423,120</u>	<u>177,553</u>
包括利益 (千円)	230,556	221,637	<u>284,012</u>	<u>4,842,342</u>	<u>2,588,060</u>
純資産額 (千円)	2,506,011	2,717,158	<u>3,201,480</u>	<u>8,089,511</u>	5,458,041
総資産額 (千円)	4,216,731	5,873,838	<u>5,496,096</u>	<u>13,131,075</u>	8,487,284
1株当たり純資産額 (円)	250.82	274.22	<u>310.94</u>	<u>782.42</u>	528.08
1株当たり当期純利益 (円)	22.25	22.72	<u>30.50</u>	<u>41.27</u>	<u>17.20</u>
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益 (円)	21.20	22.14	<u>29.26</u>	<u>40.61</u>	<u>16.37</u>
自己資本比率 (%)	58.6	46.0	<u>58.0</u>	<u>61.5</u>	64.2
自己資本利益率 (%)	9.3	8.7	<u>10.4</u>	<u>7.5</u>	<u>2.6</u>
株価収益率 (倍)	38.29	35.56	<u>25.94</u>	<u>35.96</u>	<u>46.86</u>
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	155,290	468,010	<u>6,607</u>	<u>788,225</u>	<u>1,125,821</u>
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	125,560	222,345	322,253	287,410	276,757
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	430,739	818,285	<u>411,065</u>	<u>849,145</u>	<u>456,389</u>
現金及び現金同等物の 期末残高 (千円)	1,028,960	2,094,725	1,354,496	2,704,994	3,096,874
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	120 (32)	172 (30)	149 (24)	146 (-)	174 (20)

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第14期の平均臨時雇用者数は従業員数の100分の10未満のため、記載を省略しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第11期	第12期	第13期	第14期	第15期
決算年月	2017年 9月	2018年 9月	2019年 9月	2020年 9月	2021年 9月
売上高 (千円)	1,699,643	2,198,969	3,208,091	3,644,795	3,884,167
経常利益 (千円)	190,375	358,671	624,825	428,299	769,822
当期純利益又は 当期純損失( ) (千円)	279,023	275,496	90,089	188,623	354,411
資本金 (千円)	678,414	679,591	861,157	884,082	884,082
発行済株式総数 (株)	9,907,500	9,915,000	10,469,400	10,539,400	10,539,400
純資産額 (千円)	2,596,326	2,867,721	2,953,233	7,606,639	5,193,726
総資産額 (千円)	3,967,197	5,237,967	4,791,910	12,096,934	7,651,005
1株当たり純資産額 (円)	261.31	289.93	287.35	736.23	502.48
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間 配当額) (円)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)
1株当たり当期純利益 又は当期純損失( ) (円)	28.35	27.95	8.96	18.40	34.33
潜在株式調整後1株 当たり当期純利益 (円)	26.94	27.24	-	18.10	32.68
自己資本比率 (%)	64.9	54.6	61.5	62.8	67.8
自己資本利益率 (%)	11.5	10.1	3.1	3.6	5.5
株価収益率 (倍)	30.05	28.91	-	80.66	23.48
配当性向 (%)	-	-	-	-	-
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	69 (10)	65 (9)	93 (-)	96 (-)	118 (-)
株主総利回り (%) (比較指標：TOPIX) (%)	56.8 (126.6)	53.8 (137.4)	52.7 (120.0)	98.9 (122.9)	53.7 (153.5)
最高株価 (円)	1,572	949	1,780	1,590	2,830
最低株価 (円)	779	672	643	497	750

- (注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。  
2. 第13期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益、株価収益率については、1株当たり当期純損失であるため、記載しておりません。  
3. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数(パートタイマー及びインターンのみ、人材会社からの派遣社員は除く。)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。なお、第13期、第14期及び第15期の臨時従業員数は、その総数が従業員数の100分の10未満のため記載を省略しております。  
4. 最高株価及び最低株価は東京証券取引所(マザーズ)におけるものであります。

## 2 【沿革】

当社代表取締役社長である武永修一は、大学時代から個人事業主としてインターネットオークション(以下、「オークション」といいます。)による商品の出品販売を行っていましたが、売上高の拡大を機に、2004年4月、当社の前身となる株式会社デファクトスタンダード(以下、「同社」といいます。)を設立いたしました。同社では、オークション事業(オークションによる商品の出品販売)を主に行っていましたが、2006年1月に、個人からオークション統計サイト(現「aucfan.com(オークファンドットコム)」)の営業を譲り受け、メディア事業としてオークションの価格比較・相場検索サイトの運営を開始いたしました。当社は、2007年6月に同社のメディア事業を新設分割することによって設立されております。

当社設立以降の主な沿革は以下のとおりであります。

年月	事項
2007年6月	インターネットメディア「オークファン」の運営を事業目的として、株式会社デファクトスタンダードよりメディア事業を新設分割し、東京都港区芝に株式会社オークファンを設立、純広告サービス及びネット広告サービスを開始
2007年7月	本社を東京都渋谷区恵比寿一丁目21番8号に移転
2007年8月	オークファン無料会員サービスを開始
2008年4月	本社を東京都渋谷区広尾一丁目3番14号に移転
2008年5月	有料会員サービス「オークファンプレミアム」を開始
2008年12月	オークション専門通信講座「オークファンスクール」を開始
2009年5月	消費動向分析ツール「オークデータ」を開始
2010年1月	オークション通信講座「オークファンゼミ」を開始
2010年7月	本社を東京都渋谷区道玄坂一丁目21番14号に移転
2011年11月	総合分析ツール「オークファンプロ」を開始
2012年12月	世界のECサイトの一括検索サービス「グローバルオークファン」を開始
2013年3月	本社を東京都渋谷区道玄坂一丁目14番6号に移転
2013年4月	東京証券取引所マザーズに株式を上場
2015年2月	ネット物販ユーザー向け新サービス「最新仕入れ速報」をリリース
2015年7月	株式会社ディー・エヌ・エーが運営するBtoB卸モール「DeNA BtoB market」を承継した新設会社である株式会社NETSEAの株式を100%取得
2016年1月	株式会社リバリューの株式を100%取得
2016年2月	オークファンプレミアム会員の機能拡張と価格改定 新会員サービス「オークファンライト会員」リリース 「オークション入札予約」をYahoo!プレミアム会員特典として提供開始
2016年4月	株式会社スマートソーシングの株式を65%取得
2016年6月	スマートフォンアプリリリース(iOS版、Android版)
2016年7月	EC解析ツール『Storoid(ストロイド)』をリリース
2016年9月	株式会社NETSEAと株式会社リバリューが合併し、株式会社SynaBizとして発足
2016年11月	フリマアプリ・ネットオークション・ECの総合支援サービス「オークファンプロPlus」をリリース
2017年12月	本社を東京都品川区上大崎二丁目13番30号に移転
2017年12月	NETSEAが楽天株式会社より「楽天 B2B」事業の一部を承継
2019年7月	Amazon セラーを支援する出品ツール「ARPAcart(アルパカート)」をリリース
2019年12月	株式会社SynaBiz、農林中央金庫と食品ロス削減に向けて協働開始
2020年5月	Amazon出品ツール「オークファンコネクト」を無料提供開始
2020年8月	株式会社オークファンがイーベイ・ジャパン株式会社と業務提携

年月	事項
2020年9月	仕入れ価格の最大2%を還元する会員サービス「NETSEA プライム」をリリース
2020年12月	株式会社SynaBiz・ミドリ安全株式会社・佐川急便株式会社の3社連携 賞味期限の近い災害備蓄品の再流通支援を開始
2021年1月	NETSEAが自治体と初の協業、愛媛県の特設ページ「愛媛百貨」を開設
2021年2月	IT専門知識不要の業務自動化ソリューション(RPA)で「オークファンロボ」を提供開始
2021年8月	ワケあり商品のオークション形式卸サイトReValue BtoBモールが「NETSEAオークション」に名称変更・リニューアル
2021年11月	滞留在庫の共同仕入れプラットフォーム「NETSEAバルクモール」をリリース

### 3 【事業の内容】

#### (1) 事業の概要

当社グループは、当社と連結子会社4社で構成されております。当社グループは「RE-INFRA COMPANY」をコーポレートアイデンティティとし、社会の様々な「RE」を統合した唯一無二のインフラを構築していくという考えのもと、祖業である価格比較メディア（aucfan.com）の運営から、BtoBの卸プラットフォーム（NETSEA）、滞留在庫・返品・型落ち品などの流動化支援サービス（ReValue（ 1 ））など、「RE」に関わるサービスにて事業拡大してまいりました。

近年における国内のBtoB卸売市場は300兆円（ 2 ）規模と推定されており、海外においてもBtoB卸売分野でのニコーン企業が誕生するなど、新たな潮流を観測しています。

また、SDGs（ 3 ）に始まり、世界中で廃棄ロス問題が大きくクローズアップされており、国内でも年間約22兆円（ 4 ）規模に達すると試算しております。さらにはEC化率の増加に伴い、返品市場も今後拡大すると考えられております。

これに対して、オークファングループは卸売市場におけるSMB（中小企業・個人事業主）を中心としたデジタルトランスフォーメーション（DX）化の遅れに注目し、本事業年度は廃棄ロスの削減を課題とした取り組みを進めてまいりました。

具体的には、創業来培った700億件を超える売買データとAI技術により商品の時価を可視化、価格と販路を最適化する在庫価値ソリューション、SMB（中小企業・個人事業主）を中心とした小売・流通業向けに流通を支援する商品流通プラットフォームを用いて、在庫流動化支援ソリューションを展開してまいりました。卸売市場では今後DX化が必要不可欠であることを再認するとともに、廃棄ロス市場ではリバースロジスティクス（返品物流）分野におけるリーディングカンパニーとなる絶好の機会と捉え、事業を推進しております。

- 1 2021年8月より、サービスの一部である「ReValueBtoBオークション」を「NETSEAオークション」に名称変更
- 2 経済産業省 2021年7月30日発表 電子商取引に関する市場調査より推察
- 3 Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）。2015年に国連で採択された2030年までに達成すべき目標
- 4 平成28年度法人企業統計（財務省）などを基に当社試算

これらに事業投資活動を行うインキュベーション事業を加え、当社グループでは「在庫価値ソリューション」、「商品流通プラットフォーム」、及び「インキュベーション」の大きく3つの区分で売上及び営業利益の計上を行っております。

#### a . 在庫価値ソリューション

「在庫価値ソリューション事業」は、データを基にAI技術を活用し在庫の価値を可視化することにより、企業が保有する在庫価値の可視化・最適化等を推進するソリューションを提供しております。主なサービスとしては当社が保有する流通相場データを活用した『aucfan.com（オークファンドットコム）』となり、主たる収益源は有料課金収入となります。その他、EC販売支援サービス『タテンポガイド』の提供、2021年2月には、専門知識がなくても直感的に操作できるRPAツール『オークファンロボ』の提供を新たに開始しております。なお、小売業の経営課題を解決する在庫管理AIソリューション『zaicoban（ざいこばん）』は、ターゲットとする大手企業への導入にリードタイムを要し売上見込が遅延していることを受け、当社グループの強みであるSMB（中小企業・個人事業主）向けに活用する戦略に変更し、サービスを終了しております。

なお、『aucfan.com』における対象者別の主要な機能の概要は以下の通りです。

『aucfan.com』の主要機能一覧

対象者	サービス名称及び機能	月額利用料 (税込)	機能の概要
全てのユーザー	「商品情報及び価格情報検索」	無料	商品名や特徴となるキーワードから該当する商品情報及び価格情報に関して、ECサイトを横断的に比較・検索ができます。
(無料会員) 一般会員	「マイページ」	無料	『aucfan.com』内に「マイページ」を開設することにより、気に入った商品情報及び価格情報を保存する機能や有料会員の機能の一部(出品テンプレートの保存、入札予約など)を制限付で利用できます。
	「オークファン コネクト」	無料	Amazon特化の出品ツール。出品作業を簡易化し出品時間を大幅に短縮できます。
有料会員	「オークファン ライト」	330円	『aucfan.com』サイトにおける広告コンテンツの非表示、過去10年間分の落札相場検索、入札予約ツールなどのサービスを利用できます。
	「オークファン プレミアム」	998円	有料会員の基本サービスであり、過去10年間の落札データ検索や出品者向け機能の利用が可能になる他、落札相場検索のハイスピード化、出品テンプレートの保存、入札予約等のサービスが利用できます。
	「オークファン プロPlus」	11,000円	オークション出品者向けの相場検索機能及びデータ分析機能等の利用が可能になります。

当社は、商品情報及び価格情報についてはサイト開設から2021年9月末時点で、約700億件を超えるデータを蓄積しており、一般会員(無料会員)数は961,987人、有料会員数は36,790人に至っております。また直近3年間の一一般会員数(無料会員数)、有料会員数( 1 )及び有料会員1人あたりの平均月額課金額の年次推移は以下のとおりとなります

1 オークファンプレミアム会員、オークファンプロPlus会員、オークファンライト会員の合計にて算出

『aucfan.com』関連の一般会員数(無料会員数)、有料会員数、有料会員1人あたりの平均月額課金額の推移

年月	2019年9月期末	2020年9月期末	2021年9月期末
一般会員数(無料会員数)	870,646人	916,217人	961,987人
有料会員数	37,115人	35,818人	36,790人
有料会員1人あたりの平均月額課金額	1,710円/月	1,671円/月	1,600円/月



b. 商品流通プラットフォーム

「商品流通プラットフォーム事業」は、企業の在庫・滞留商品等の流通を支援しており、複数のマーケットプレイスの運営や流通を加速させる人材育成スクールの運営等を実施しております。主なサービスとしては、BtoB卸モール『NETSEA（ネッシー）』、滞留在庫・返品・型落ち品などの流動化支援を行う『NETSEAオークション（旧 リバリュースtoBモール）』、副業・複業として物販ビジネスを行なう事業主を対象とするスクール形式の副業支援サービス『good sellers（グッドセラーズ）』がございます。主たる収益源は、NETSEAでは流通手数料収入及び有料課金収入、NETSEAオークションでは商品販売収入となります。なお、当期より顧客ターゲットを当社グループの強みであるSMB（中小企業・個人事業主）向けに変更したことに伴い、寄付型ショッピングサイト「otameshi（オタメシ）」はサービス運営を終了いたしました。

より具体的には『NETSEA』においては、在庫を抱える大手メーカー・卸（以下、「サプライヤー」といいます。）と幅広い商品の仕入れニーズを持つ中小規模の小売店・卸（以下、「バイヤー」といいます。）をマッチングさせ、既存流通網ではアプローチできなかった新たな販路の提供を行っております。主な収益モデルは、流通金額の8～10%程度の流通手数料及び、本格的に販売強化を行うサプライヤーを対象とした有料課金メニューの提供であります。

『NETSEAオークション』においては、滞留在庫・返品・型落ち品等、サプライヤーの持つ在庫をインターネット上でクロードなオークションサイトにて、リユース事業者を中心とするバイヤーに販売を行っております。主な収益モデルは、商品売買における販売収益であります。

『good sellers（グッドセラーズ）』では、主に副業・複業として物販ビジネスを行なう事業主を対象として、物販ビジネスに精通した講師が直接及び遠隔でサポートするスクール形式のサービスを展開することによる受講料を収益としております。

直近3年間の『NETSEA』及び『NETSEAオークション』の流通額（1）は以下のとおりとなります。

『NETSEA』及び『NETSEAオークション』の流通額の推移

(単位：百万円)

年月	2019年9月期末	2020年9月期末	2021年9月期末
NETSEA	6,441	7,796	8,907
NETSEAオークション	141	284	525

1 NETSEA流通額は注文後のキャンセルを勘案した流通額にて計算

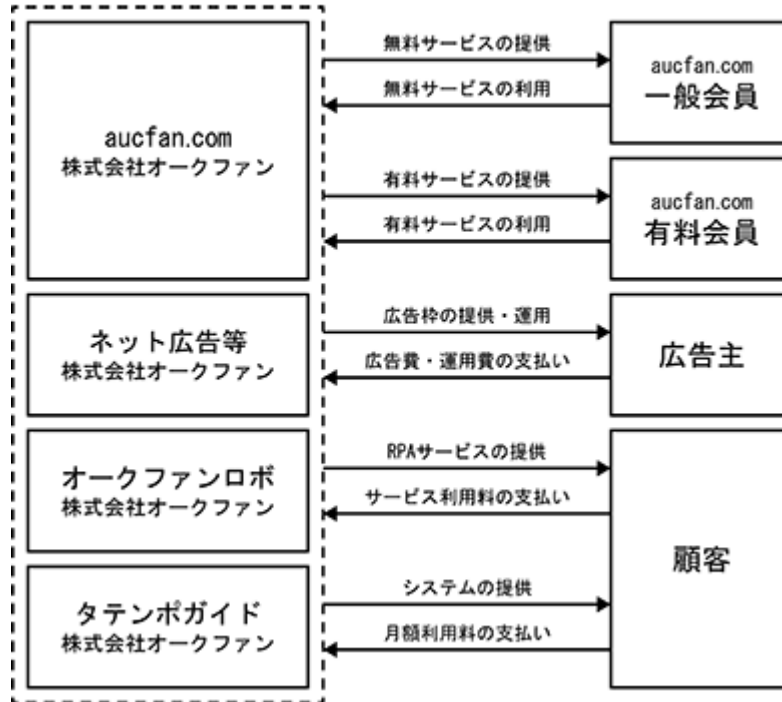
c. インキュベーション

「インキュベーション事業」は、事業投資及び投資先企業の支援を通じて、当社が中長期にわたり競合優位性を構築・維持していくための知見とネットワークを得ることを目的とした事業セグメントであります。主たる収益源は、営業投資有価証券の売却益、投資先企業へのコンサルティング収益となります。なお、当セグメントでは将来成長の基盤となる新規事業の開発等も実施しております。

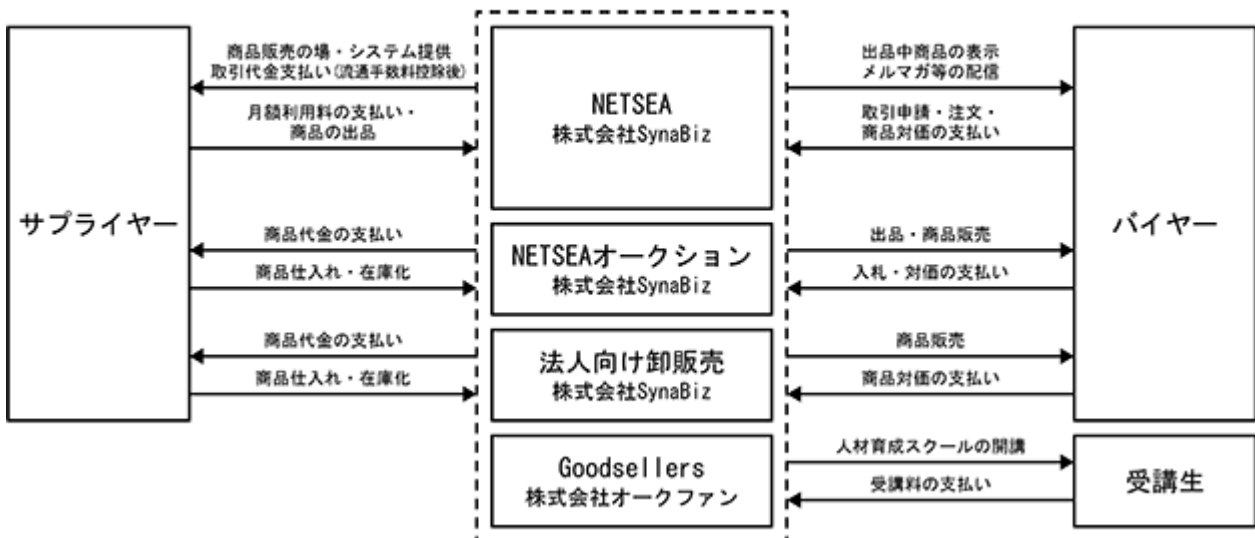
(2) 事業系統図

以上述べた事項を事業系統図によって示すと次のとおりであります。

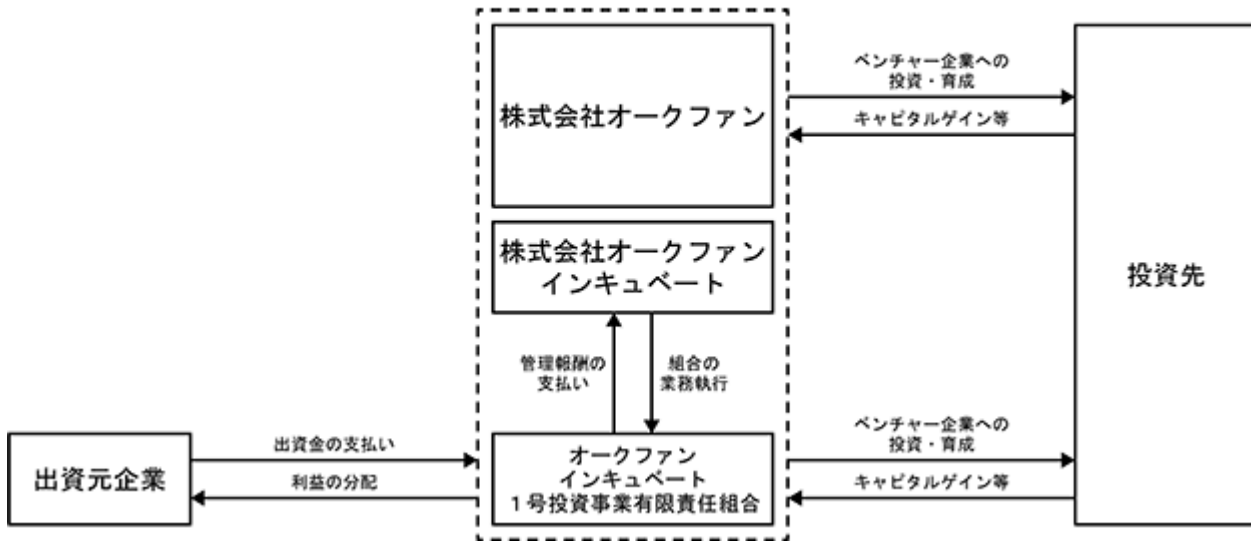
## 在庫価値ソリューション事業



## 商品流通プラットフォーム事業



## インキュベーション事業



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業の内容	議決権の所有割合(%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社SynaBiz (注) 1 . 2	東京都品川区	25,000千円	BtoB・BtoCマーケット プレイス事業	100.0	役員の兼任
(連結子会社) 株式会社オークファンインキュ ベート	東京都品川区	10,000千円	投資事業組合の組成、 運用管理	100.0	役員の兼任
(連結子会社) オークファンインキュベート ファンド1号投資事業有限責任 組合 (注) 1	東京都品川区	583,000千円	国内外のベンチャー企 業への投資	100.0	-
(連結子会社) 株式会社オークファンパート ナース	愛媛県松山市	16,000千円	マーケットプレイス出 店支援事業	100.0	役員の兼任

(注) 1 . 特定子会社に該当しております。

2 . 株式会社SynaBizについては、売上高（連結会社相互間の内部売上を除く）の連結売上収益に占める割合が10%を超えております。

主要な損益情報等は次の通りであります。

名称	売上高 (千円)	経常損失 (千円)	当期純損失 (千円)	純資産額 (千円)	総資産額 (千円)
株式会社SynaBiz	4,495,517	48,107	140,634	1,430,586	2,495,908

## 5 【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

2021年9月30日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
在庫価値ソリューション	64 (2)
商品流通プラットフォーム	74 (18)
インキュベーション	16 (-)
報告セグメント計	154 (20)
全社共通	20 (-)
合計	174 (20)

- (注) 1. 従業員数は就業人員であります。  
2. 従業員数は就業人員であり、臨時従業員数(パートタイマー及びインターンのみ、人材会社からの派遣社員は除く。)は、年間の平均人員を( )外数で記載しております。  
3. 従業員数が前連結会計年度末と比べて、28名増加しましたのは、主に株式会社オークファンパートナーズが連結子会社となったためであります。

### (2) 提出会社の状況

2021年9月30日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
118	34.0	3.1	5,403

セグメントの名称	従業員数(人)
在庫価値ソリューション	64
商品流通プラットフォーム	18
インキュベーション	16
報告セグメント計	98
全社(共通)	20
合計	118

- (注) 1. 従業員数は、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員であります。  
2. 臨時従業員数は、その総数が従業員数の100分の10未満のため記載を省略しております。  
3. 平均年間給与は、基準外賃金を含んでおります。  
4. 従業員数が前事業年度末と比べて、22名増加しましたのは、主に事業規模の拡大に伴う新規採用及び連結子会社であった株式会社スマートソーシングを吸収合併したためであります。

### (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておきませんが、労使関係は円満に推移しております。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

近年における国内のBtoB卸売市場は300兆円（ 1 ）規模と推定されており、海外においてもBtoB卸売分野でのユニコーン企業が誕生するなど、新たな潮流を観測しています。また、SDGs（ 2 ）に始まり、世界中で廃棄ロス問題が大きくクローズアップされており、国内でも年間約22兆円（ 3 ）規模に達すると試算しております。さらにはEC化率の増加に伴い、返品市場も今後拡大すると考えられております。

- 1 経済産業省 2021年7月30日発表 電子商取引に関する市場調査より推察
- 2 Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）。2015年に国連で採択された2030年までに達成すべき目標
- 3 平成28年度法人企業統計（財務省）などを基に当社試算

当社グループは卸売市場におけるSMB（中小企業・個人事業主）を中心としたデジタルトランスフォーメーション（DX）化の遅れに注目し、本事業年度は廃棄ロスの削減を課題とした取り組みを進めてまいりました。

具体的には、創業来培った700億件を超える売買データとAI技術により商品の時価を可視化、価格と販路を最適化する在庫価値ソリューション、SMB（中小企業・個人事業主）を中心とした小売・流通業向けに流通を支援する商品流通プラットフォームを用いて、在庫流動化支援ソリューションを展開してまいりました。卸売市場では今後DX化が必要不可欠であることを再認するとともに、廃棄ロス市場ではリバースロジスティクス（返品物流）分野におけるリーディングカンパニーとなる絶好の機会と捉え、次期以降の伸長に向け事業の選択と集中を進めております。

当社グループが対処すべき課題は、次のとおりです。

#### 卸売市場のDX化

当社グループでは、オークション等価格比較メディア「オークファン（aucfan.com）」をはじめとする在庫価値ソリューション及びBtoBマーケットプレイス「NETSEA」をはじめとする商品流通プラットフォームの提供により、卸売市場におけるDX化を含む市場の発展を推進してまいりましたが、なお、卸売市場におけるDX化の遅れを再認しており、その推進が急務となっています。

そのため、当社グループでは、その強みがあるSMB（中小企業・個人事業主）向け事業への選択と集中を進め、更なるDX化の推進及び市場の発展のため、サービス及び利用者の拡大並びに利便性の向上を図ってまいります。

#### システム技術・情報セキュリティの継続的な強化

当社グループの事業は、インターネット上でのサイト運営を中心としており、サービス提供に係るシステムを安全・安定に稼働させることが重要な課題であると認識しております。そのため、利用者数増加に伴う負荷分散や利用者満足度の向上を目的とした新規サービス・機能の開発等に備え、引き続き設備の先行投資を継続的に行ってまいります。

#### 多様な売買データの整備・拡充

当社グループが保有するネットオークション・ネットショッピングを中心とする約10年分の売買データは、分析・加工を経て当社グループユーザに利用されております。これらのデータは個人・法人を問わず、利用者の増加とともに、その利用方法も多岐にわたってきております。当社グループでは、これらのユーザニーズの多様化に対応される分析ノウハウ・加工技術を加速度的に向上させるため、引き続き専門部署においてこれらのデータの整備を積極的に行ってまいります。

## 2 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクは、以下のとおりです。

当社グループは、これらのリスク発生の可能性を十分に認識したうえで、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針ではありますが、当社の株式に関する投資判断は、本項及び本書の本項以外の記載内容も併せて慎重に検討したうえで行われる必要があると考えております。なお、文中の将来に関する事項につきましては、本書提出日現在において当社が判断したものであり、将来において発生の可能性があるすべてのリスクを網羅するものではありません。

### (1) インターネット関連市場に関するリスクについて

#### インターネット及びインターネットオークション市場の動向

当社グループは、インターネットを活用したEC関連市場及びインターネットメディア事業を主たる事業領域としていることから、インターネットの更なる普及が成長のための基本的な条件と考えております。

日本国内におけるインターネット利用人口は継続的に増加し、今後も一層増加するものと想定されますが、今後の動向は不透明な部分があります。急激な普及に伴う弊害の発生や利用に関する新たな規制の導入、その他予期せぬ要因等によって、インターネットの利用者数やインターネット市場規模が順調に成長しない場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。また、当社はヤフー株式会社等が運営するインターネットオークション市場の商品情報及び価格情報の提供をユーザー向けに行っており、課金による収入を主たる事業としております。したがって、インターネットオークション市場運営者の動向により当社の事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 技術革新について

インターネット業界は、技術革新や顧客ニーズの変化のサイクルが極めて早いことが特徴の一つであり、新たなテクノロジーを基盤としたサービスの新規参入が相次いで行われております。当社グループは、このような急速に変化する環境に柔軟に対応すべく、オープンソースを含む先端的なテクノロジーの知見やノウハウの蓄積、更には高度な技能を習得した優秀な技術者の採用を積極的に推進していく方針であります。

しかしながら、先端的なテクノロジーに関する知見やノウハウの蓄積、技術者の獲得に困難が生じる等、技術革新に関する適切な対応が遅れ、当社グループの技術的優位性やサービス競争力の低下を招いた場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

### (2) 事業内容及び当社サービスに関するリスクについて

#### 特定のサービスへの依存について

当社グループは、複数のマーケットプレイスの運営をしており、主たる収益はマーケットプレイスの収入であります。2021年9月期における売上高(8,384,968千円)に占める比率は60.1%(5,043,092千円)であり、マーケットプレイス収入への依存度が高い状況にあります。今後、新たな法的規制の導入や予期せぬ事象の発生等により、サイトの利便性の低下による利用者数の減少や、サイト運営が困難となった場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### サイト機能の充実について

当社グループは、利用者のニーズに対応するため、当社グループが運営する各サイトの機能の拡充を進めております。

しかしながら、今後、有力コンテンツの導入や利用者のニーズの的確な把握が困難となり、十分な機能の拡充ができず利用者に対する訴求力が低下した場合には、サイト利用者数の減少により、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 検索エンジン・インターネット広告への対応について

当社グループが運営するサービスの利用者の多くは、特定の検索エンジンからの集客、又はインターネット広告からの訪問であり、今後も検索エンジンからの集客施策及びインターネット広告の配信を実施していく予定です。

しかしながら、検索結果を表示する検索エンジンのアルゴリズムが大幅に変更される等の事象が発生した場合、検索エンジンからのユーザー集客が減少すること及び適切なインターネット広告の配信が出来なくなる可能性が発生し、これらに対応するため追加的な費用等の発生や当社グループが運営する各サイトへの集客数が減少し、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 課金サービス利用料金における決済について

当社グループの課金サービスについては、その利用料金の回収を回収代行業者に委託しております。当社は特定の回収代行業者に依存しているわけではありませんが、特にGMOペイメントゲートウェイ株式会社への委託が大きく、売上に占める割合も高くなっているため、今後取引条件等に変更があった場合、委託先のシステムトラブルにより決済に支障が生じた場合、委託先の経営状況や財政状態が悪化した場合、その他何らかの理由により委託先との取引関係が継続できない場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 『aucfan.com』で提供する商品情報及び価格情報について

『aucfan.com』において利用者に提供している価格等の商品情報及び価格情報は、各ECサイトから公開されている商品情報及び価格情報を整理統合し、統計学的補正を施したものです。当社では、各ECサイトとは良好な関係を築いており本書提出日現在当社との関係において問題はないと認識しておりますが、今後、各ECサイトの戦略方針の変更等何らかの理由により商品情報及び価格情報の取得が困難になる場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 競合について

当社グループは、インターネットメディア事業やEC事業を展開しておりますが、当該分野においては、大手企業を含む多くの企業が事業展開していることもあり、競合が現れる可能性があります。今後、十分な差別化や機能向上等が図られなかった場合や、新規参入等により競争が激化した場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

### (3) システムに関するリスクについて

#### システム障害・通信トラブルについて

当社グループのサービス提供では、サーバーを経由して当社グループが運営するサイトの利用者にサイト機能やサービスを提供しております。また、サーバー運用に際しては、国内大手データセンターへホスティングを中心とした業務を外部に委託するとともに、クラウド上のサーバーを併用しております。

しかしながら、自然災害、火災、コンピュータウィルス、通信トラブル、第三者による不正行為、サーバーへの過剰負荷、人為的ミス等あらゆる原因によりサーバー及びシステムが正常に稼働できなくなった場合、あるいは当社グループが過去に蓄積してきた商品情報及び価格情報が消失した場合、当社グループのサービスが停止する可能性があります。

当社グループでは上記のような場合に備え、当社内においても商品情報及び価格情報を保存しており、当社及びデータセンターで保存することで対策を図っております。

当社グループでは上記のような対策を行っておりますが、それにもかかわらず何らかのシステム障害・通信トラブルにより当社グループのサービスが停止した場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。



#### 事業拡大に伴う設備投資について

当社グループは、今後の利用者数及びアクセス数の拡大に備え、継続的なサーバー等のシステムインフラへの設備投資が必要であると認識しております。設備投資によりシステムインフラを増加したものの、想定していた利用者数及びアクセス数を下回った場合には、稼働率の低下となり、減価償却費等の費用の増加を吸収できず、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (4) 法的規制及び知的財産等に関するリスクについて

##### 法的規制について

当社グループは、インターネット上の事業展開において各種法的規制等を受けており、その主な内容は以下のとおりであります。

##### a．不正アクセス行為の禁止等に関する法律(不正アクセス禁止法)

同法におけるアクセス管理者として、努力義務ながら不正アクセス行為からの一定の防御措置を講ずる義務が課されております。

##### b．特定電子メールの送信の適正化等に関する法律(特定電子メール法)

営利団体等が、個人(送信に同意した者等を除く。)に対し、広告・宣伝の手段として電子メールを送信する場合に、一定の事項を表示する義務等が課されております。当社グループは、会員向けメールマガジン等の配信においては、その送信につき事前に同意した会員等に対してのみ配信する方針を取っております。

##### c．特定商取引に関する法律

当社グループの事業に関わる法的規制として、消費者保護に関して「特定商取引に関する法律」があり、規制を受けております。

##### d．青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境等に関する法律(青少年ネット規制法)

同法における関係事業者の責務として、青少年有害情報の閲覧をする機会をできるだけ少なくするための措置を講ずるとともに、青少年のインターネットを適切に活用する能力の習得に資するための措置を講ずるよう努めることが課せられております。

上記以外にも、一般消費者を対象とした「消費者契約法」の適用を受けるほか、有料会員の募集及び広告の取扱いに際して「不当景品類及び不当表示防止法」の適用を受けております。

近年、インターネット上のトラブル等への対応として、インターネット関連事業を規制する法令は徐々に整備されている状況にあり、今後、インターネットの利用や関連するサービス及びインターネット関連事業を営む事業者を規制対象とする新たな法令等による規制や既存法令等の解釈変更等がなされた場合には、当社グループの事業が制約を受ける可能性があります。その場合、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 個人情報の取扱いについて

当社グループは、事業運営に際して、当社グループのサービスを利用する会員にIDの登録を依頼しており、当社グループのデータベースサーバーには、個人情報がデータとして蓄積されております。

これらの情報については、当社グループにおいて守秘義務があります。このため当社においては個人情報の保護の徹底を図るべく、個人情報に関する個人情報管理基本規程を作成し、当社が取得・保有する個人情報の取扱方法、個人情報データベースへのアクセス制限及びアクセスログの管理について定めるとともにISMSの取得を行うなど、個人情報の漏出を防止するための方策を実施しております。具体的には、当社が知り得た情報については、当社のシステム部門を中心に、データへアクセスできる人数の制限等の漏洩防止策が講じられております。

しかしながら、当社が実施している上記方策にもかかわらず、当社からの個人情報の漏出を永久かつ完全に防止できるという保証はありません。

今後、当社グループの保有する個人情報データベースへの不正侵入や人為的ミス等を原因として、当社グループが保有する個人情報が万が一社外に漏出した場合には、当社グループの風評の低下による当社グループを経由した売買件数及び会員数の減少、当該個人からの損害賠償請求等を招く可能性があり、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### 当社グループにおける知的財産権について

当社グループは、知的財産権の保護をコンプライアンスの観点から重要な課題であると認識しております。

当社では管理部門である経営管理部により、知的財産権の管理体制を強化しておりますが、当社グループの知的財産権が侵害された場合、解決までに多くの時間及び費用が発生する等、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループの属する市場がさらに成長し、ITの進展とあいまって、事業活動が複雑多様化するにつれ、競争も進み、知的財産権をめぐる紛争件数が増加する可能性があります。このような場合、当社グループが第三者の知的財産権等を侵害したことによる損害賠償請求や差止請求、又は当社グループに対するロイヤリティの支払い要求等を受けることにより、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (5) 事業運営体制に係わるリスクについて

##### 小規模組織であることについて

当社グループは小規模組織であり、会社の規模に応じた内部管理体制や業務執行体制となっております。このため、業容拡大に応じた人員を確保できず役職員による業務遂行に支障が生じた場合、あるいは役職員が予期せず退社した場合には、内部管理体制や業務執行体制が有効に機能せず、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

##### 人材の確保及び育成

当社グループにおいて優秀な人材の確保、育成及び定着は今後の業容拡大のための重要課題であります。新入社員及び中途入社社員に対する研修の実施をはじめ、リーダー層となる中堅社員への幹部教育を通じ、将来を担う優秀な人材の確保・育成に努め、社内研修等を通じて役職員間のコミュニケーションを図ることで、定着率の向上を図っております。しかしながら、これらの施策が効果的である保証はなく、必要な人材を採用できない場合、また採用し育成した役職員が当社の事業に寄与しなかった場合、あるいは育成した役職員が社外流出した場合には、優秀な人材の確保に支障をきたし、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

##### 社歴が浅いことについて

当社は2007年6月に設立され、未だ業歴が浅く成長途上にあります。したがって過去の財務情報だけでは今後の事業及び業績を予測するうえで十分な判断を提供しているとは言えない可能性があります。

#### 特定人物への依存について

当社代表取締役である武永修一は、事業の立案や実行等会社運営において重要な役割を果たしております。当社グループといたしましては、同氏に過度に依存しない事業体制の構築を目指し、人材の育成及び強化に注力しておりますが、今後不慮の事故等何らかの理由により同氏が当社の業務を執行することが困難になった場合には、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

#### (6) 新型コロナウイルス感染症への対応

当社グループが展開する事業におきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の悪影響を即時かつ直接的に受けることは極めて限定的であり、本書提出日現在、事業及び業績に大きな影響を及ぼす事項はございません。しかしながら新型コロナウイルス感染症の終息時期は依然として不透明であり、最終的な影響については予測が非常に困難であること、世界経済がより深刻な状況へ悪化した場合は当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

#### (7) その他

##### 資金使途について

当社の調達資金の使途については、主に運営するBtoB並びにBtoCサイトにおける仕入れ、プロモーション活動等による広告宣伝費、データ・ユーザー数増加のためのサーバー機器等の増設、サイト機能向上のためのソフトウェア開発、及び事業の拡大にかかる人材採用費等に充当する計画となっております。しかしながら、インターネット関連業界その他事業環境の変化に対応するために、調達した資金が計画どおり使用されない可能性があります。また、計画どおりに使用された場合でも、想定どおりの効果を得られず、当社グループの事業展開及び経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

##### 配当政策について

当社では、利益配分につきましては、経営成績及び財政状態を勘案して、株主への利益配当を実現することを基本方針としております。しかしながら、当社は本書提出日現在、成長過程にあり、将来の事業展開と財務体質強化のために必要な内部留保の確保を優先するとともに、当期につきましては新型コロナウイルス感染症に伴う急激な市場の変化が発生した場合に備えたこともあり、創業以来2021年9月期まで無配当としてまいりました。

現在は内部留保の充実に努めておりますが、将来的には経営成績及び財政状態を勘案しながら株主への利益の配当を実施する方針であります。ただし、配当実施の可能性及びその実施時期等については、現時点において未定であります。

##### 新株予約権の行使並びに譲渡制限付株式の発行に伴う株式価値の希薄化について

当社グループは、当社役員及び従業員に対するインセンティブを目的として、新株予約権を付与しております。

これらの新株予約権が行使された場合には、当社グループの1株当たりの株式価値が希薄化することになり、将来における株価へ影響を及ぼす可能性があります。また、当社グループでは今後も新株予約権の付与を行う可能性があり、この場合、さらに1株当たりの株式価値が希薄化する可能性があります。

また、2019年11月28日開催の取締役会において、当社取締役(社外取締役を除く)、当社執行役員及び従業員並びに当社子会社の取締役、執行役員及び従業員に対して譲渡制限付株式報酬制度を導入することを決議いたしました。

譲渡制限付株式報酬制度は、現時点において株式を割当てておりませんが、これらの株式が新株式発行により付与された場合、ストックオプション制度と同様に当社の1株当たりの株式価値が希薄化する可能性があります。

なお、本書提出日の前月末(2021年11月30日)現在、これらの新株予約権による潜在株式数は、593,400株であり、発行済株式総数10,549,400株の5.6%に相当します。新株予約権の詳細については「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2) 新株予約権等の状況」に記載のとおりであります。

### 3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

##### 経営成績の状況

当社グループは、当社と連結子会社4社で構成されております。当社グループは「RE-INFRA COMPANY」をコーポレートアイデンティティとし、社会の様々な「RE」を統合した唯一無二のインフラを構築していくという考えのもと、祖業である価格比較メディア（aucfan.com）の運営から、BtoBの卸プラットフォーム（NETSEA）、滞留在庫・返品・型落ち品などの流動化支援サービス（ReValue（ 1 ））など、「RE」に関わるサービスにて事業拡大してまいりました。

近年における国内のBtoB卸売市場は300兆円（ 2 ）規模と推定されており、海外においてもBtoB卸売分野でのユニコーン企業が誕生するなど、新たな潮流を観測しています。

また、SDGs（ 3 ）に始まり、世界中で廃棄ロス問題が大きくクローズアップされており、国内でも年間約22兆円（ 4 ）規模に達すると試算しております。さらにはEC化率の増加に伴い、返品市場も今後拡大すると考えられております。

これに対して、オークファングループは卸売市場におけるSMB（中小企業・個人事業主）を中心としたデジタルトランスフォーメーション（DX）化の遅れに注目し、本事業年度は廃棄ロスの削減を課題とした取り組みを進めてまいりました。

具体的には、創業来培った700億件を超える売買データとAI技術により商品の時価を可視化、価格と販路を最適化する在庫価値ソリューション、SMB（中小企業・個人事業主）を中心とした小売・流通業向けに流通を支援する商品流通プラットフォームを用いて、在庫流動化支援ソリューションを展開してまいりました。卸売市場では今後DX化が必要不可欠であることを再認するとともに、廃棄ロス市場ではリバースロジスティクス（返品物流）分野におけるリーディングカンパニーとなる絶好の機会と捉え、事業を推進しております。

当連結会計年度では、商品流通プラットフォーム事業の中核であるNETSEA、NETSEオークションがコロナ特需後もGMV（流通額）の高成長が続き、今後も成長が継続されることを考え、事業の選択と集中並びに注力事業への先行投資を実施いたしました。

「在庫価値ソリューション事業」は、データを基にAI技術を活用し在庫の価値を可視化することにより、企業が保有する在庫価値の可視化・最適化等を推進するソリューションを提供しております。主なサービスとしては当社が保有する流通相場データを活用した『aucfan.com（オークファンドットコム）』となり、主たる収益源は有料課金収入となります。その他、EC販売支援サービス『タテンポガイド』の提供、2021年2月には、専門知識がなくても直感的に操作できるRPAツール『オークファンロボ』の提供を新たに開始しております。なお、小売業の経営課題を解決する在庫管理AIソリューション『zaicoban（ざいこばん）』は、ターゲットとする大手企業への導入にリードタイムを要し売上見込が遅延していることを受け、当社グループの強みであるSMB（中小企業・個人事業主）向けに活用する戦略に変更し、サービスを終了しております。これらの結果、売上高1,816,119千円（前年同期比6.0%減）、営業利益338,714千円（前年同期比7.9%減）となりました。

「商品流通プラットフォーム事業」は、企業の在庫・滞留在庫等の流通を支援しており、複数のマーケットプレイスの運営や流通を加速させる人材育成スクールの運営等を実施しております。主なサービスとしては、BtoB卸モール『NETSEA（ネッシー）』、滞留在庫・返品・型落ち品などの流動化支援を行う『NETSEAオークション（旧 リバリューストックモール）』、副業・複業として物販ビジネスを行なう事業主を対象とするスクール形式の副業支援サービス『good sellers（グッドセラーズ）』がございします。主たる収益源は、NETSEAでは流通手数料収入及び有料課金収入、NETSEAオークションでは商品販売収入となります。なお、当期より顧客ターゲットを当社グループの強みであるSMB（中小企業・個人事業主）向けに変更したことに伴い、寄付型ショッピングサイト「otameshi（オタメシ）」はサービス運営を終了いたしました。

『NETSEA（ネッシー）』及び『NETSEAオークション（旧 リバリューストックモール）』を中心として、流通量・利用者の増加が好調に推移しており、さらなる流通額最大化を狙った営業・開発体制の強化及びプロモーションを実施いたしました。また、法人向け卸販売において、債権未回収等の一時的な費用が発生いたしました。

これらの結果、売上高5,043,092千円（前年同期比15.0%増）、営業損失259,441千円（前年同期は282,895千円の営業利益）となりました。

「インキュベーション事業」は、事業投資及び投資先企業の支援を通じて、当社が中長期にわたり競合優位性を構築・維持していくための知見とネットワークを得ることを目的とした事業セグメントであります。主たる収益源は、営業投資有価証券の売却益、投資先企業へのコンサルティング収益となります。なお、当セグメントでは将来成長の基盤となる新規事業の開発等も実施しております。営業投資有価証券の売却及び投資先企業へのコンサルティング等を実施した結果、売上高1,708,458千円(前年同期比34.5%増)、営業利益874,969千円(前年同期比73.7%増)となりました。

以上の結果、当連結会計年度における売上高は8,384,968千円(前年同期比12.7%増)、営業利益は578,667千円(前年同期比25.8%減)、経常利益は621,226千円(前年同期比22.7%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は177,553千円(前年同期比58.0%減)となりました。当連結会計年度の自己資本当期純利益率に关しましては2.6%(前年同期比4.9ポイント減)となりました。

- 1 2021年8月より、サービスの一部である「ReValueBtoBオークション」を「NETSEAオークション」に名称変更
- 2 経済産業省 2021年7月30日発表 電子商取引に関する市場調査より推察
- 3 Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)。2015年に国連で採択された2030年までに達成すべき目標
- 4 平成28年度法人企業統計(財務省)などを基に当社試算

#### 財政状態の状況

##### 資産の部

###### (流動資産)

当連結会計年度末における流動資産は、7,638,182千円(前連結会計年度末は11,918,031千円)となりました。主な要因といたしましては、現金及び預金が391,879千円増加した一方で、受取手形及び売掛金が214,860千円減少、投資先株式の時価評価等により営業投資有価証券が4,298,410千円減少した結果であります。

###### (固定資産)

当連結会計年度末における固定資産は、849,102千円(前連結会計年度末は1,213,044千円)となりました。主な要因といたしましては、ソフトウェアが189,816千円減少、のれんが89,256千円減少、繰延税金資産が24,278千円減少した結果であります。

##### 負債の部

###### (流動負債)

当連結会計年度末における流動負債は、2,241,972千円(前連結会計年度末は2,651,702千円)となりました。主な要因といたしましては、未払金が123,857千円増加した一方で、未払法人税等が368,893千円減少、買掛金が87,308千円減少、短期借入金が133,332千円減少した結果であります。

###### (固定負債)

当連結会計年度末における固定負債は、787,270千円(前連結会計年度末は2,389,861千円)となりました。主な要因といたしましては、投資先株式の時価評価により繰延税金負債が1,280,797千円減少、長期借入金が319,976千円減少した結果であります。

##### 純資産の部

当連結会計年度末における純資産は、5,458,041千円(前連結会計年度末は8,089,511千円)となりました。主な要因といたしましては、利益剰余金が177,553千円増加した一方で、投資先株式の時価評価によりその他有価証券評価差額金が2,766,127千円減少した結果であります。

## キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、前連結会計年度末より391,879千円増加し、3,096,874千円となりました。当連結会計年度におけるキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

税金等調整前当期純利益359,412千円、減価償却費232,139千円、減損損失275,657千円、売上債権の減少額222,222千円、営業投資有価証券の減少額276,795千円、貸倒引当金の増加額272,698千円などの計上に対し、仕入債務の減少額83,597千円、法人税等の支払額599,726千円などにより、営業活動の結果獲得した資金は1,125,821千円(前年同期は788,225千円の獲得)となりました。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

貸付金の回収による収入11,125千円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入5,902千円などの計上に対し、無形固定資産の取得による支出265,922千円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出20,435千円、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出19,969千円などにより、投資活動の結果使用した資金は276,757千円(前年同期は287,410千円の使用)となりました。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

短期借入金の返済による支出133,332千円、長期借入金の返済による支出327,786千円、連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出43,200千円などの計上に対し、太陽光発電及び蓄電池に関する取引による手数料の受取額49,894千円により、財務活動の結果使用した資金は456,389千円(前年同期は849,145千円の獲得)となりました。

なお、当社グループの運転資金及び設備投資資金は自己資金並びに借入金等により充当しております。当連結会計年度末の有利子負債残高は1,704,406千円となり、前連結会計年度末に比べ472,197千円減少しており、自己資本比率は64.2%と依然として高い水準を維持しております。

資金の流動性に関しましては、当連結会計年度末の現金及び現金同等物は3,096,874千円と十分な流動性を確保しております。

生産、受注及び販売の実績

a. 生産実績

当社グループの主たる事業は、インターネットを利用したサービスの提供であり、提供するサービスには生産に該当する事項がありませんので、生産実績に関する記載はしていません。

b. 受注実績

当社グループでは概ね受注から役務提供の開始までの期間が短いため、受注実績に関する記載を省略しております。

c. 販売実績

当連結会計年度のセグメント別の販売実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	前年同期比(%)
在庫価値ソリューション(千円)	1,695,689	94.8
商品流通プラットフォーム(千円)	4,986,735	113.9
インキュベーション(千円)	1,702,543	134.1
合計(千円)	8,384,968	112.7

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)		当連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
株式会社SBI証券 (注) 2. 3	1,231,246	16.6	-	-
野村證券株式会社 (注) 2. 3	-	-	986,400	11.8

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績のうち、当該販売実績の総販売実績に対する割合が10%未満の相手先につきましては記載を省略しております。

3. 営業投資有価証券の売却による売上金額を記載しております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

文中の将来に関する事項は、本書提出日現在において当社が判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成にあたって、経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要としております。経営者は、これらの見積りについて、過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は、見積りによる不確実性のため、これらの見積りと異なる場合があります。

当社グループの連結財務諸表で採用する重要な会計方針は、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)(重要な会計上の見積り)」に記載しております。

なお、会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響の考え方については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(追加情報)」に記載しております。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

a. 経営成績の分析

当連結会計年度における売上高は8,384,968千円(前年同期比12.7%増)、営業利益は578,667千円(前年同期比25.8%減)、経常利益は621,226千円(前年同期比22.7%減)、親会社株主に帰属する当期純利益は177,553千円(前年同期比58.0%減)となりました。

なお、詳細につきましては、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 経営成績の状況」に記載しております。

b. 資本の財源及び資金の流動性について

当社グループにおける運転資金需要の主なものは、仕入費用、販売費及び一般管理費の営業費用による営業資金及び設備投資資金であります。当社グループの資金の源泉は主として営業活動によるキャッシュ・フロー及び金融機関からの借入による資金調達となります。

経営方針・経営戦略等又は経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループの事業に関連するEC市場規模については、消費者向け(BtoC-EC)及び企業間(狭義BtoB-EC)市場規模においても好調な拡大が今後も継続的に見込まれるものと思われま

す。近年における国内のBtoB卸売市場は300兆円(1)規模と推定されており、海外においてもBtoB卸売分野でのユニコーン企業が誕生するなど、新たな潮流を観測しています。

また、SDGs(2)に始まり、世界中で廃棄ロス問題が大きくクローズアップされており、国内でも年間約22兆円(3)規模に達すると試算しております。さらにはEC化率の増加に伴い、返品市場も今後拡大すると考えられております。

2021年9月期においては、商品流通プラットフォーム事業の中核であるNETSEA・NETSEAオークションにて、コロナ特需後もGMV(流通額)が前期比136%(4)と高成長を続けており、この成長を一層加速させるため、当社グループの強みであるSMB(中小企業/個人事業主)をターゲットとした「NETSEA」、「NETSEAオークション」、「aucfan」を注力事業とし、大企業向け・個人向けのサービスからは撤退いたしました。

2022年9月期もさらなる積極投資を継続し、BtoB卸売市場、リパースロジスティクス分野にて圧倒的な地位を確立するべく、事業を推進してまいります。

当社グループの成長モデルとして、商品流通プラットフォーム事業ではGMV(流通額)及び売上総利益、在庫価値ソリューション事業ではARR(課金額)及び売上総利益を重要指標として定め、各々を伸ばしてまいります。

今後もサプライヤー成長コンサルティング、海外バイヤーとの連携による新市場の開拓、物流関連業務の提供、グループ間シナジーの強化及び在庫流動化ソリューションサービスの提供により、更なる成長を図ります。また、創業来オークファンが蓄積し続けてきた膨大な商品実売データも活用し、企業のもつ滞留在庫・余剰在庫



の価値を可視化し、より積極的に市場再流通を促すことで、当社グループ経由の流通額の拡大を図ってまいります。

商品流通プラットフォームにおきましては各サービスにおける流通高の増加をKPIとしており、掲載商品数の増加（サプライヤーの開拓）を図るべく各種プロモーション強化施策を展開することにより、更なる成長を図ります。

在庫価値ソリューション領域におけるメディア『aucfan.com』においてはUV（ユニーク・ビジター）及び会員数がKPIであります。今後も引き続きプロモーション強化施策、SEO対策、ECサイト各社とのアライアンス強化などによるユーザー（オークファンプロPlus会員数含む）の拡大、運営ノウハウの提供により更なる成長を図ります。

各種商品関連データ蓄積においては、取得件数と対応マーケットプレイス数がKPIであります。今後も引き続きクロウリング/スクレイピング技術、データマイニング技術、機械学習などを活かした分析ツールの提供により、更なる成長を図ります。

インキュベーション領域では投資利回り及び情報収集がKPIであります。今後もベンチャー企業を中心とした投資を進めるとともに、当社グループを取り巻く市場環境の最新テクノロジー等の情報を収集してまいります。

#### 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループは「RE-INFRA COMPANY」をコーポレートアイデンティティとし、社会の様々な「RE」を統合した唯一無二のインフラを構築していくという考えのもと、事業を推進しております。「RE」とは、すでにあるものを捉え直し、より良く組み替え、再構成するという意味を含んでおり、当社グループは「RE」に関する様々な機能を繋げ統合することで、モノとそれに関わるヒトの価値を、再配分・最適配分し、廃棄ロスという深刻な社会問題を解決することにより、当社グループのサービス利用者及び顧客の満足度向上を図り、企業価値・株主価値の向上を目指しております。

- 1 経済産業省 2021年7月30日発表 電子商取引に関する市場調査より推察
- 2 Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）。2015年に国連で採択された2030年までに達成すべき目標
- 3 平成28年度法人企業統計（財務省）などを基に当社試算
- 4 NETSEA・NETSEAオークションにおける流通額。感染症対策グッズ流通を除く実力値にて計算

#### 4 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

#### 5 【研究開発活動】

在庫価値ソリューション事業は、700億円を超える「商品売買の実売価格」に基づく多面的なデータ解析を行っており、ユーザーにとって有益な情報を提供するため、日々研究を続けております。

当連結会計年度における当社グループ全体の研究開発活動に関わる費用の総額は、58,742千円であります。

### 第3 【設備の状況】

#### 1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度においては、展開するサービス関連のソフトウェア開発を中心に270,299千円の設備投資を実施しました。主な設備投資の内容は次のとおりであります。

在庫価値ソリューション事業における『aucfan.com』の追加機能開発等に192,927千円、商品流通プラットフォーム事業におけるBtoBサービス及びBtoCサービスの追加機能開発等に73,503千円の設備投資を実施しました。

#### 2 【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、以下のとおりであります。

##### (1) 提出会社

2021年9月30日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (人)	
			建物	工具、器具 及び備品	リース資産	ソフトウェア	ソフトウェア 仮勘定		合計
本社 (東京都品川区)	在庫価値ソリューション、 商品流通プラットフォーム、 インキュベーション	業務施設	42,410	13,030	4,522	190,562	3,463	253,989	118
データセンター (東京都品川区)	在庫価値ソリューション	サーバー 機器等	-	1,472	-	-	-	1,472	-

- (注) 1. 上記の金額に消費税等は含まれておりません。  
2. 現在休止中の主要な設備はありません。  
3. 本社及びデータセンターは全て賃借物件であり、賃借料143,379千円であります。

##### (2) 国内子会社

2021年9月30日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (人)
				建物	工具、器具 及び備品	ソフトウェア	合計	
(株)SynaBiz	本社及びデータセンター (東京都品川区)	商品流通プラットフォーム	業務施設及び サーバー機器等	0	1,098	67,643	68,742	37
(株)SynaBiz	倉庫 (埼玉県入間郡三芳町)	商品流通プラットフォーム	倉庫施設	6,418	3,820	221	10,459	5
(株)オークファンパートナーズ	本社 (愛媛県松山市)	商品流通プラットフォーム	業務施設	-	-	18,216	18,216	14

- (注) 1. 上記の金額に消費税等は含まれておりません。  
2. 現在休止中の主要な設備はありません。  
3. (株)SynaBizの本社、データセンター及び倉庫は全て賃借物件であり、賃借料59,984千円であります。

#### 3 【設備の新設、除却等の計画】

##### (1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

##### (2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

## 第4 【提出会社の状況】

### 1 【株式等の状況】

#### (1) 【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	25,000,000
計	25,000,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2021年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2021年12月23日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	10,539,400	10,549,400	東京証券取引所 (マザーズ)	完全議決権株式であり、株主としての権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	10,539,400	10,549,400	-	-

(注) 「提出日現在発行数」欄には、2021年12月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

当社は、ストック・オプション制度を採用しております。当該制度は、会社法の規定に基づき新株予約権を発行する方法によるものであり、当該制度の内容は、以下のとおりであります。

回次	第8回	第9回	第11回	第12回	第13回
決議年月日	2011年12月28日	2012年12月19日	2016年1月20日	2016年2月29日	2017年7月20日
付与対象者の区分及び人数	「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項(ストック・オプション等関係)」に記載している。				
新株予約権の数(個)、(注)2	4[0]	3	2,536	3,676[0]	3,323
新株予約権の目的となる株式の種類、内容及び数(株)、(注)1、2	普通株式 10,000[0]	普通株式 7,500	普通株式 253,600	普通株式 367,600[0]	普通株式 332,300
新株予約権の行使時の払込金額(円)(注)3	「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項(ストック・オプション等関係)」に記載している。				
新株予約権の行使期間	同上				
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 312 資本組入額 156	発行価格 312 資本組入額 156	発行価格 654 資本組入額 327	発行価格 662 資本組入額 331	発行価格 920 資本組入額 460
新株予約権の行使の条件	「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項(ストック・オプション等関係)」に記載している。				
新株予約権の譲渡に関する事項	本新株予約権を譲渡するには、取締役会の承認を受けなければならない。				
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	(注)4				

当事業年度の末日(2021年9月30日)における内容を記載しております。当事業年度の末日から提出日の前月末現在(2021年11月30日)にかけて変更された事項については、提出日の前月末現在における内容を[ ]内に記載しており、その他の事項については当事業年度の末日における内容から変更はありません。

(注)1. 新株予約権の割当日以降に当社が株式分割又は株式併合を行う場合は、株式分割又は株式併合の効力発生の時をもって次の算式により目的となる株式数(以下「付与株式数」という。)を調整し、調整の結果1株未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てるものとする。なお、かかる調整は、本新株予約権のうち、当該時点で権利行使されていないものについてのみ行われるものとする。

調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割又は併合の比率

また、新株予約権割当日以降に当社が時価を下回る価額での新株の発行もしくは自己株式の処分(ただし、新株予約権の行使により新株を発行又は自己株式を処分する場合を除く。)、合併、会社分割又は株式無償割当を行う場合等、付与株式数の変更をすることが適切な場合は、当社は必要と認める調整を行うものとする。

2. 新株予約権の数及び新株予約権の目的となる株式数は、取締役会決議における新株発行予定数から、退職等により権利を喪失した者の新株予約権の数を減じている。

3. 新株予約権の割当日以降に下記の事由が生じた場合は、行使価額を調整するものとする。

当社が株式分割又は株式併合を行う場合は、次の算式によりその時点における行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げるものとする。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

当社がその時点における時価を下回る価額で新株の発行又は当社が保有する自己株式の処分(ただし、新株予約権の行使により新株を発行又は自己株式を処分する場合を除く。)を行う場合は、次の算式によりその時点における行使価額を調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は切り上げるものとする。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{新株式発行前の1株当たり時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新発行株式数}}$$

上記算式において、「既発行株式数」とは当社の発行済普通株式総数から当社の自己株式数を控除した数とし、また、自己株式の処分を行う場合には「新発行株式数」を「処分する自己株式数」、「新株式発行前」を「自己株式処分前」と読み替えるものとする。さらに、当社が合併等を行う場合、株式の無償割当を行う場合、その他上記の行使価額の調整を必要とする場合には、合併等の条件、株式の無償割当の条件等を勘案のうえ、合理的な範囲内で行使価額を調整するものとする。

4. 当社が、合併（合併により当社が消滅する場合に限る。）、吸収分割、新設分割、株式交換又は株式移転（以下総称して「組織再編行為」という。）をする場合、それぞれの場合につき、組織再編行為の効力発生の時点において残存する本新株予約権（以下「残存新株予約権」という。）の新株予約権者に対し、合併後存続する株式会社、合併により設立する株式会社、吸収分割をする株式会社がその事業に関して有する権利義務の全部もしくは一部を承継する株式会社、新設分割により設立する株式会社、株式交換をする株式会社の発行済株式の全部を取得する株式会社、又は、株式移転により設立する株式会社（以下総称して「再編対象会社」という。）の新株予約権を、次の条件にて交付するものとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅するものとする。ただし、次の条件に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を定めた吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画が、当社株主総会において承認された場合に限るものとする。

交付する再編対象会社の新株予約権の数

残存新株予約権の新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類

再編対象会社の普通株式とする。

新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数

組織再編行為の条件等を勘案のうえ、目的である株式数につき合理的な調整がなされた数（以下「承継後株式数」という。）とする。ただし、調整により生じる1株未満の端数は切り捨てるものとする。

新株予約権を行使することのできる期間

新株予約権を行使することのできる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のいずれか遅い日から、新株予約権を行使することのできる期間の満了日までとする。

新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項

新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果1円未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げるものとする。また、この場合、増加する資本準備金の額は、上記の資本金等増加限度額から増加する資本金の額を減じた額とする。

新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

上記「新株予約権の行使時の払込金額」及び(注)3に準じて決定する。

その他の新株予約権の行使条件並びに新株予約権の取得事由

上記「新株予約権の行使の条件」及び当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定める条件に準じて決定する。

譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の承認を要する。

新株予約権を行使した新株予約権者に交付する株式の数に1株に満たない端数がある場合には、これを切り捨てるものとする。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額(千円)	資本準備金 残高(千円)
2016年10月1日～ 2017年9月30日 (注)1	12,500	9,907,500	1,962	678,414	1,962	678,284
2017年10月1日～ 2018年9月30日 (注)1	7,500	9,915,000	1,177	679,591	1,177	679,461
2018年10月1日～ 2019年9月30日 (注)1	554,400	10,469,400	181,566	861,157	181,566	861,027
2019年10月1日～ 2020年9月30日 (注)1	70,000	10,539,400	22,925	884,082	22,925	883,952

(注) 1. 新株予約権の権利行使による増加であります。

2. 2021年10月25日付の新株予約権の権利行使により、発行済株式総数が10,000株、資本金及び資本準備金がそれぞれ1,576,840円増加しております。

(5) 【所有者別状況】

2021年9月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	4	20	74	34	15	6,973	7,120	-
所有株式数 (単元)	-	3,623	1,883	11,787	3,255	58	84,723	105,329	6,500
所有株式数 の割合(%)	-	3.44	1.79	11.19	3.09	0.06	80.44	100.00	-

(注) 自己株式216,990株は、「個人その他」に2,169単元、「単元未満株式の状況」に90株含めて記載しております。

(6) 【大株主の状況】

2021年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
武永 修一	東京都港区	4,106,800	39.79
S 1 7 3 株式会社	東京都千代田区九段南 2 丁目 2 - 1	950,000	9.20
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海 1 丁目 8 - 12	161,400	1.56
株式会社日本カストディ銀行(証券投資信託口)	東京都中央区晴海 1 丁目 8 - 12	156,000	1.51
SIX SIS LTD. (常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行)	BASLERSTRASSE 100, CH-4600 OLTEN SWITZERLAND (東京都千代田区丸の内 2 丁目 7 - 1)	134,700	1.30
林 亮介	広島県廿日市	74,100	0.72
オークファン役員持株会	東京都品川区上大崎 2 丁目13 - 30	72,600	0.70
野村證券株式会社	東京都中央区日本橋 1 丁目13 - 1	54,750	0.53
川田 一哉	埼玉県さいたま市北区	45,000	0.44
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町 2 丁目11 - 3	44,800	0.43
計	-	5,800,150	56.19

- (注) 1. 上記のほか当社所有の自己株式216,990株があります。
2. 上記大株主の状況に記載のS 1 7 3 株式会社は、当社代表取締役社長武永修一が全株式を保有する資産管理会社であります。
3. 発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合は、小数点以下第3位を四捨五入しております。
4. 前事業年度末現在主要株主であったアセットマネジメントOne株式会社及びその共同保有者であるみずほ証券株式会社は、当事業年度末においては主要株主及びその共同保有者ではなくなりました。
5. 上記の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。
- 株式会社日本カストディ銀行(信託口) 161,400株  
株式会社日本カストディ銀行(証券投資信託口) 156,000株  
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 44,800株
6. 2021年6月7日付で公衆の縦覧に供されている大量保有報告書(変更報告書)において、アセットマネジメントOne株式会社及びその共同保有者であるみずほ証券株式会社が2021年5月31日付で以下の株式を所有している旨が記載されているものの、当社として2021年9月30日現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
- なお、大量保有報告書(変更報告書)の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (株)	株券等保有割合 (%)
アセットマネジメントOne株式会社	東京都千代田区丸の内 1 丁目 8 番 2 号	株式 137,800	1.31
みずほ証券株式会社	東京都千代田区大手町 1 丁目 5 番 1 号	株式 91,500	0.87



(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2021年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 216,900	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 10,316,000	103,160	-
単元未満株式	普通株式 6,500	-	-
発行済株式総数	10,539,400	-	-
総株主の議決権	-	103,160	-

- (注) 1. 「完全議決権株式(自己株式等)」の欄は、すべて自社保有の自己株式であります。  
2. 「単元未満株式」の株式数の欄には、自己株式90株が含まれております。

【自己株式等】

2021年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
株式会社オークファン	東京都品川区上大崎2丁目13番30号	216,900	-	216,900	2.06
計	-	216,900	-	216,900	2.06

## 2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	57	208
当期間における取得自己株式	-	-

(注) 当期間における取得自己株式数には、2021年12月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他(-)	-	-	-	-
保有自己株式数	216,990	-	216,990	-

(注) 当期間における保有自己株式数には、2021年12月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含まれておりません。

## 3 【配当政策】

当社は、株主に対する利益還元を重要な経営課題の一つとして位置付けております。現在、当社を取り巻く市場環境は、国内外のEC化比率が上昇するなど、当社にとって非常に大きな成長の機会が到来していると認識しております。このような中におきまして、この機会を逃すことなく成長軌道へと進めるため、事業への積極投資を実施することにより、一層の業容拡大を目指すことが株主に対する最大の利益還元につながるかと考えており創業以来配当は実施しておりません。

配当につきましては安定的・継続的に実施することが好ましいと考えており、継続的に検討を行っておりますが、新型コロナウイルス感染症によるこれまで経験した事の無い程の市場環境の大きな変化が起きており、企業成長・企業存続の取り組みへの資金としての内部留保の充実を図る方針であります。将来的には、各事業年度の財政状態及び経営成績を勘案しながら株主への利益還元を検討していく予定ではありますが、現時点において配当実施の可能性及びその実施時期等については未定であります。

なお、当社は、年1回の期末配当を基本方針としており、「取締役会の決議により、毎年3月31日を基準日として、中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

配当の決定機関は、中間配当は取締役会、期末配当は株主総会であります。

#### 4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

##### (1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

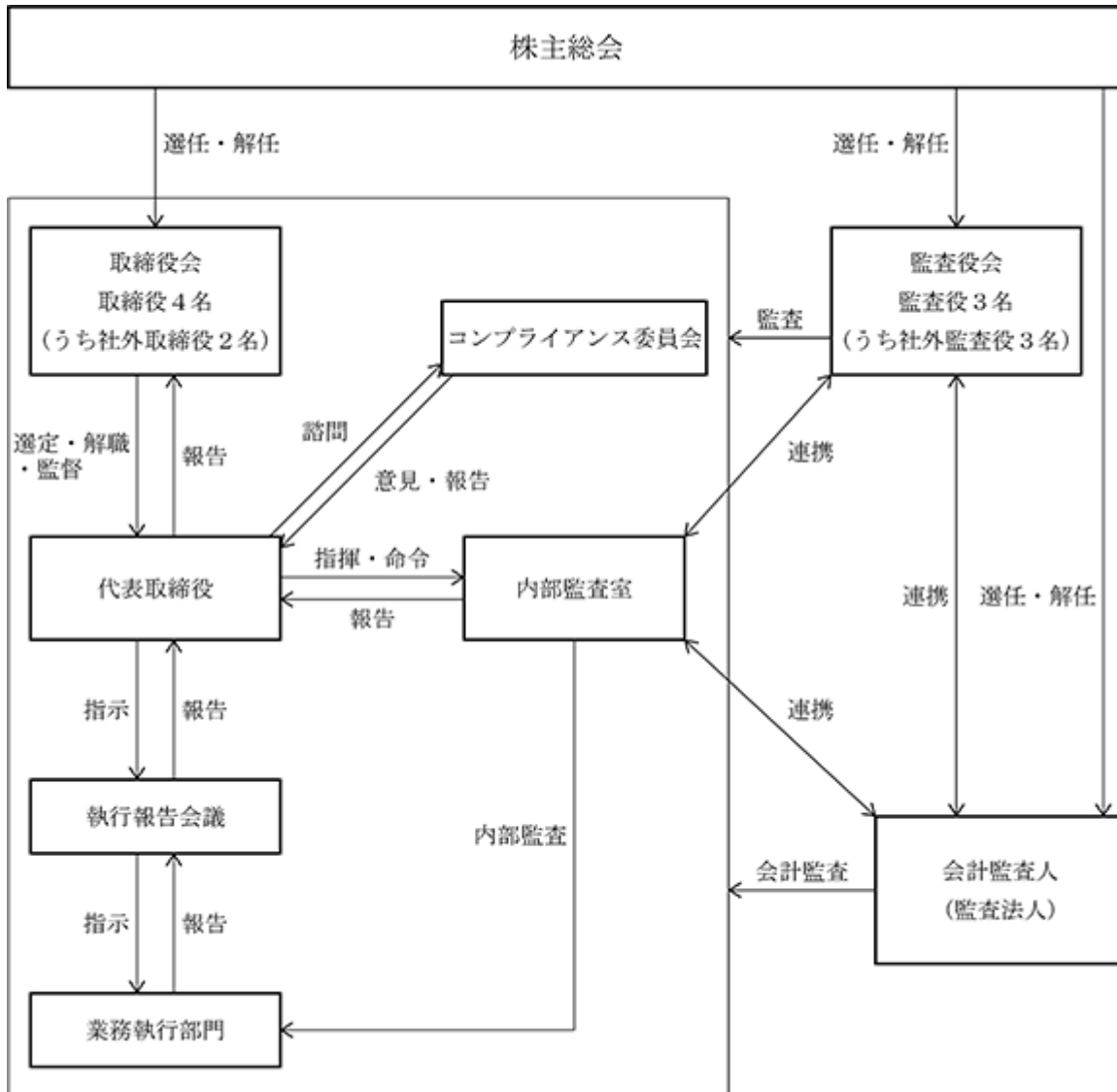
当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、健全で透明性が高く、効率的で開かれた経営を実現することにあります。そのためには、少数の取締役による迅速な意思決定及び取締役相互間の経営監視とコンプライアンスの徹底、株主等のステークホルダーを重視した透明性の高い経営、ディスクロージャーの充実とアカウントビリティの強化が必要と考えております。

また、当社は、取締役の職務執行の有効性・効率性及び法令等の遵守を確保するため、監査役会を設置し、監査役を中心とした経営監視を行っております。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

当社は、会社法に規定する機関として、取締役会、監査役会、会計監査人を設置するとともに、日常業務の活動方針を決定する執行報告会議を設置しております。また、執行役員制度を導入しており、経営監視機能と業務執行機能を分離し、役割・責任の明確化と意思決定の迅速化を図っております。

##### a . コーポレート・ガバナンス体制図



機関ごとの構成員は次のとおりであります。( は議長もしくは委員長)

役職名	氏名	取締役会	監査役会	執行報告会議	コンプライアンス委員会
代表取締役社長	武永 修一				
取締役	海老根 智仁	○			
取締役(社外取締役)	嶋 聡	○			
取締役(社外取締役)	門脇 英晴	○			
常勤監査役(社外監査役)	梶 尚人	○		○	○
監査役(社外監査役)	渡邊 清	○	○		
監査役(社外監査役)	松本 武	○	○		
執行役員	石丸 啓明			○	
執行役員	濱田 淳二				○
執行役員	藤井 厚				
関連部門従業員				○	

b. 企業統治の体制の概要

(a) 取締役会

当社の取締役会は取締役4名(うち社外取締役2名)により構成されており、毎月1回の定時取締役会の他、必要に応じ機動的に臨時取締役会を開催し、会社の経営方針、経営戦略等経営の重要な意思決定及び業務執行の監督を行っております。取締役会には、監査役が毎回出席し、取締役の業務執行状況の監査を行っております。

(b) 監査役会

当社の監査役会は常勤監査役1名及び非常勤監査役2名で構成されており、全て社外監査役であります。非常勤監査役は、それぞれの専門的見地から経営監視を実施しており、常勤監査役は、取締役会以外の重要な会議にも出席する他、重要な書類の閲覧等を通して、取締役の業務執行状況を監査できる体制となっております。

監査役会に関しては、原則として毎月1回定時監査役会を開催しており、取締役会の意思決定の適正性について意見交換される他、常勤監査役から取締役等の業務執行状況の報告を行い、監査役会としての意見を協議・決定しております。

(c) 執行報告会議

当社では、代表取締役、常勤監査役及び執行役員のほか、必要に応じて代表取締役が指名する管理職が参加する執行報告会議を設置し、原則として毎週月曜日に開催しております。

執行報告会議は職務権限上の意思決定機関ではありませんが、経営計画の達成及び会社業務の円滑な運営を図ることを目的として機能しております。具体的には、取締役会付議事項の協議や各部門から業務執行状況及び事業実績の報告がなされ、月次業績の予実分析と審議が行われております。加えて、重要事項の指示・伝達の徹底を図り、認識の統一を図る機関として機能しております。

(d)コンプライアンス委員会

当社では、代表取締役が任命した委員長及び委員にて構成されたコンプライアンス委員会を設置しております。

コンプライアンス委員会は職務権限上の意思決定機関ではありませんが、コンプライアンスは当社にとって重要であると認識していることから「コンプライアンス規程」、「コンプライアンス委員会規程」及び「コンプライアンス・マニュアル」にて、当社としてのコンプライアンスの方針、体制、運用方法等を定め、たうえで、コンプライアンス委員会を原則として毎四半期に1回開催しております。

コンプライアンス委員会では、コンプライアンスの推進のための施策及び法令違反に対する未然防止策の協議並びに全従業員に対する法令遵守意識の浸透と徹底を図ることを目的とした機関として機能しております。

企業統治に関するその他の事項

a．内部統制システムの整備の状況

当社では、企業の透明性と公平性の確保に関して、取締役会にて「内部統制システムに関する基本方針」及び各種社内規程を制定し、内部統制システムを整備するとともに、運用の徹底を図っております。また、規程遵守の実態確認と内部統制機能が有効に機能していることを確認するために、代表取締役が選任した内部監査室による内部監査を実施しております。内部監査室は、監査役及び会計監査人とも連携し、監査の実効性を確保しております。

b．リスク管理体制の整備の状況

当社では、各部門での情報収集をもとに執行報告会議やコンプライアンス委員会などの重要会議を通じてリスク情報を共有しつつ、「リスク管理規程」、「情報セキュリティ規程」、「個人情報管理基本規程」に基づく活動を通じ、リスクの早期発見及び未然防止に努めております。また、必要に応じて弁護士、公認会計士、弁理士、税理士、社会保険労務士等の外部専門家からアドバイスを受けられる良好な関係を構築するとともに、監査役監査及び内部監査を通じて、潜在的なリスクの早期発見及び未然防止によるリスク軽減に努めております。

なお、事業活動上の重大な事態が発生した場合には、代表取締役を長とした対策部を設置し、迅速かつ確に対応し、損失・被害等を最小限にとどめるための体制を整えております。

c．子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

子会社の取締役、社員等の職務の執行に関わる事項の報告に関する体制、子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制、子会社の取締役等の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制、子会社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確認するための体制につきましては、子会社の経営・財務等に関する重要な事項については当社報告事項とするとともに、重要な意思決定については当社承認事項としております。また、当社の取締役及び監査役が主要な子会社の取締役及び監査役を兼務し、毎月開催する子会社の定例取締役会及び子会社に対する期中の監査役監査にて体制の確保を図っております。

d．取締役の定数

当社の取締役の定数は8名以内とする旨を定款に定めております。

e．取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらないものとする旨を定款で定めております。

f．株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。これは、株主総会における定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

g．責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役2名及び社外監査役3名は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、会社法第425条第1項に定める額としております。なお、当該責任限定契約が認められるのは、当該社外取締役又は監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。

h．役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、保険会社との間で、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しており、当社が保険料の全額を負担しております。

当該役員等賠償責任保険契約の被保険者は当社及び当社の全ての子会社の全ての取締役及び監査役であり、これらの役職の立場で行った行為による損害賠償金、争訟費用等を填補します。当該役員等賠償責任保険契約においては、役員等の職務の執行の適正性が損なわれないよう、犯罪行為、意図的な違法行為その他の一定の事由に該当する場合には保険金を支払わない旨を定めております。

i．中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、株主総会決議に基づく剰余金の配当に加え、取締役会決議により毎年3月31日を基準日として、会社法第454条第5項に定める剰余金の配当(中間配当)ができる旨を定款に定めております。

j．自己株式

当社は、自己株式の取得について、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性7名 女性 名 (役員のうち女性の比率 %)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長	武永 修一	1978年 5月14日生	2004年 4月 株式会社デファクトスタンダード 設立 代表取締役 就任 2007年 6月 当社 設立 代表取締役 就任(現任) 2014年 9月 株式会社AMBITION 社外取締役 就 任 2014年11月 グランドデザイン株式会社 取締役 就任 2015年 7月 株式会社 NETSEA(現：株式会 社 SynaBiz) 代表取締役 就任(現任) 2015年 9月 株式会社AMBITION 社外取締役(監 査等委員) 就任 2016年 4月 株式会社デジファン 取締役 就任 2016年 7月 株式会社スマートソーシング 取締 役 就任 2016年12月 同社 代表取締役 就任 2017年12月 株式会社ネットプライス 取締役 就任 2018年 3月 同社 代表取締役 就任 2019年10月 株式会社オークファンインキュ ベート 取締役 就任(現任)	(注) 3	4,106,800
取締役	海老根 智仁	1967年 8月30日生	1991年 4月 株式会社大広 入社 1999年 9月 株式会社オプト(現：株式会社デジ タルホールディングス) 入社 2001年 1月 同社 代表取締役COO 就任 2006年 1月 同社 代表取締役CEO 就任 2007年11月 株式会社トライステージ 取締役 就任 2008年 3月 株式会社オプト(現：株式会社デジ タルホールディングス) 代表取締 役社長CEO 就任 2009年 3月 同社 取締役会長 就任 2010年 3月 株式会社モブキャスト(現：株式会 社モブキャストホールディングス) 取締役 就任 2014年 3月 株式会社レジェンド・パートナ ーズ 代表取締役会長 就任 2014年 4月 株式会社モブキャスト(現：株式会 社モブキャストホールディングス) 取締役 経営企画室 最高顧問 就任 2015年 7月 同社 取締役 社長室 最高顧問 就 任 2015年 9月 株式会社レジェンド・パートナ ーズ 取締役会長 就任(現任) 2016年 4月 HOMMA, Inc. 取締役 就任(現任) 2018年12月 当社 取締役 就任(現任) 2019年 6月 NES株式会社 取締役 就任(現任)	(注) 3	2,800

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
取締役	嶋 聡	1958年4月25日生	1986年4月	財団法人松下政経塾(現:公益財団法人松下政経塾) 卒塾	(注) 3	-
			1996年10月	衆議院議員 当選 以後3期連続当選		
			2005年11月	ソフトバンク株式会社(現:ソフトバンクグループ株式会社) 社長室長 就任		
			2014年4月	同社 顧問 就任		
			2014年4月	ソフトバンクモバイル株式会社(現:ソフトバンク株式会社) 特別顧問 就任		
			2015年4月	多摩大学 客員教授 就任		
			2017年6月	株式会社ミクシィ 社外取締役 就任(現任)		
			2017年12月	当社 社外取締役 就任(現任)		
			2018年10月	株式会社アイモバイル 社外取締役 就任(現任)		
			2020年3月	ハンファソリューションズ株式会社 社外取締役 就任(現任)		
取締役	門脇 英晴	1944年6月20日生	1968年4月	株式会社三井銀行(現:株式会社三井住友銀行)入行	(注) 3	-
			2001年4月	株式会社三井住友銀行 代表取締役専務取締役兼専務執行役員 就任		
			2002年12月	株式会社三井住友フィナンシャルグループ 代表取締役専務取締役 就任		
			2003年6月	同社 代表取締役副社長 就任		
			2003年6月	相模鉄道株式会社 監査役 就任		
			2004年6月	三井物産株式会社 監査役 就任		
			2004年6月	株式会社日本総合研究所 理事長 就任		
			2007年6月	三井化学株式会社 監査役 就任		
			2008年6月	株式会社日本総合研究所 特別顧問・シニアフェロー 就任(現任)		
			2018年6月	株式会社シーボン 社外取締役 就任		
			2018年6月	総合警備保障株式会社 社外取締役 就任(現任)		
			2019年12月	当社 社外取締役 就任(現任)		



役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
常勤監査役	梶 尚人	1960年3月31日生	<p>1990年1月 日本合成ゴム株式会社(現:JSR株式会社)入社</p> <p>1997年9月 日本タンデムコンピューターズ株式会社(現:日本ヒューレット・パカード株式会社)入社 管理部 契約管理担当マネージャー</p> <p>1998年1月 コンパックコンピュータ株式会社(現:日本ヒューレット・パカード株式会社)入社 法務部マネージャー</p> <p>1999年6月 株式会社ディレク・ティービー 入社 総務・法務部法務課長</p> <p>2000年3月 株式会社ファーストリテイリング 入社 管理部法務チームリーダー</p> <p>2002年9月 株式会社アトラス 入社 AM事業本部 中国担当ゼネラル・マネージャー</p> <p>2004年11月 AIGエジソン生命保険株式会社(現:ジブラルタ生命保険株式会社)入社 コンプライアンス本部法務課長</p> <p>2006年2月 デル株式会社 入社 コントラクト・マネジメント・ディレクター</p> <p>2007年6月 株式会社ヒガ・インダストリーズ(現:株式会社ドミノ・ピザジャパン) 監査役 就任</p> <p>2011年8月 当社監査役 就任</p> <p>2013年12月 合同会社西友 入社 コンプライアンス本部 ディレクター</p> <p>2016年12月 株式会社Synabiz 監査役 就任(現任)</p> <p>2016年12月 株式会社デジファン 監査役 就任</p> <p>2016年12月 株式会社スマートソーシング 監査役 就任</p> <p>2016年12月 当社 常勤監査役 就任(現任)</p> <p>2017年12月 株式会社ネットプライス 監査役 就任</p>	(注)4	-
監査役	渡邊 清	1956年9月23日生	<p>1985年10月 司法試験 合格</p> <p>1988年3月 司法修習(第40期) 修了</p> <p>1988年4月 東京地方検察庁刑事部 検事 任官 その後、各地方検察庁等 勤務</p> <p>2005年4月 広島地方検察庁 総務部長 就任</p> <p>2007年4月 東京高等検察庁刑事部 検事 就任</p> <p>2008年4月 前橋地方検察庁 高崎支部長 就任</p> <p>2010年4月 東京高等検察庁刑事部 検事 就任</p> <p>2011年4月 広島高等検察庁 総務部長 就任</p> <p>2011年4月 広島修道大学法科大学院 非常勤講師 就任</p> <p>2013年4月 東京高等検察庁刑事部 検事 就任</p> <p>2013年8月 横浜地方検察庁 相模原支部長 就任</p> <p>2015年4月 広島高等検察庁 公安部長 就任</p> <p>2016年3月 検事 退官</p> <p>2016年4月 弁護士登録(東京弁護士会)、清風法律事務所</p> <p>2017年12月 当社 社外監査役 就任(現任)</p> <p>2018年4月 ひかり総合法律事務所 オブ・カウンセラー 就任(現任)</p>	(注)4	-

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
監査役	松本 武	1984年 8 月 5 日生	2007年12月 2016年 7 月 2020年12月 2020年12月 2021年 2 月	あずさ監査法人(現：有限責任あずさ監査法人) 入所 株式会社KPMG FAS 入社 松本武公認会計士事務所 開業(現任) 当社 社外監査役 就任(現任) 株式会社エムアンドスマート 設立 代表取締役 就任	(注) 4	-
計						4,109,600

- (注) 1. 取締役嶋聡及び門脇英晴は、社外取締役であります。
2. 監査役梶尚人、渡邊清及び松本武は、社外監査役であります。
3. 取締役の任期は、2021年12月22日開催の定時株主総会終結の時から1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までであります。
4. 監査役任期は、2020年12月23日開催の定時株主総会終結の時から4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までであります。
5. 当社では、経営環境の変化への迅速な対応と組織の活性化を図るため、執行役員制度を導入しております。執行役員は3名で、事業領域管掌石丸啓明、社長室藤井厚及び経営管理部部長濱田淳二で構成されております。

#### 社外役員の状況

当社の社外取締役は2名、社外監査役は3名であります。

社外取締役嶋聡氏は、衆議院議員としての豊富な経験と幅広い見識を有しております。同氏と当社との間には、資本関係、人的関係、取引関係及びその他の利害関係はありません。

社外取締役門脇英晴氏は、長年にわたる大手金融機関等における経営者として培った豊富な経験と幅広い見識を有しております。同氏と当社との間には、資本関係、人的関係、取引関係及びその他の利害関係はありません。

社外監査役梶尚人氏は、国際的な大手企業の法務・コンプライアンス部門を通じて培った豊富な経験と幅広い見識を有しております。同氏と当社との間には、資本関係、人的関係、取引関係及びその他の利害関係はありません。

社外監査役渡邊清氏は、検察官及び弁護士としての豊富な経験と幅広い見識を有しております。同氏と当社との間には、資本関係、人的関係、取引関係及びその他の利害関係はありません。

社外監査役松本武氏は、公認会計士及び監査法人等における業務を通じて培った豊富な経験と幅広い見識を有しております。同氏と当社との間には、資本関係、人的関係、取引関係及びその他の利害関係はありません。

当社においては、社外取締役又は社外監査役を選任するための会社からの独立性に関する基準や方針について特段の定めはありませんが、その独立性に関しては、株式会社東京証券取引所が定める基準を参考にしており、一般株主と利益相反が生じるおそれのない社外取締役及び社外監査役を選任しており、経営の独立性を確保していると認識しております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、取締役会においてコンプライアンスの状況並びに内部監査の結果を含む内部統制システムの整備及び運用の状況について定期的に報告を受けるとともに、専門的見地から質問及び提言をすることにより、経営の監督機能を発揮しています。

また、社外監査役は、取締役会に出席し、コンプライアンスの状況並びに内部監査の結果を含む内部統制システムの整備及び運用の状況について定期的に把握するとともに、重要な会議に出席し、代表取締役との会合を定期的に開催しています。また、内部監査機能を有する内部監査人、会計監査人等からの報告や意見交換を通じ、連携して監査の実効性を高めています。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

・当社の監査役会の構成は、独立性を確保した社外監査役3名で構成されており、監査役会は原則として月1回以上開催しております。

当期は監査役会を合計13回開催しており、各監査役の出席状況は以下の通りです。

役職名	氏名	出席状況
常勤社外監査役	梶 尚人	13回 / 13回(100%)
社外監査役	渡邊 清	13回 / 13回(100%)
社外監査役	松本 武	10回 / 10回(100%)

(注) 開催回数が異なるのは、就任時期の違いによるものです。

・監査役会における主な検討事項は、監査方針・監査計画の策定、内部統制システム構築・運用状況の確認、監査報告書作成、会計監査員監査の方法及び結果の相当性の検討等です。

・監査役は取締役会に出席し、年間計画に従い子会社を含む担当役員・部門長等へのヒアリングを実施するほか、代表取締役社長との意見交換を行っています。また、会計監査人及び内部監査部門との定期的な会合を持ち、監査計画や監査結果等の報告を受けています。

・常勤監査役は、重要な会議に出席するとともに、議事録や決裁書類等の重要書類の閲覧を行うとともに、実査等を実施し監査役会で社外監査役と情報共有を行っています。

内部監査の状況

・従業員2名で構成する内部監査室が内部監査を担当し、当社グループの業務の適法性・適正性について評価・検証するための監査を行っています。

・内部監査室は、監査役と定期的に会議を開催し、監査役に対して社内各部門の内部統制に関する監査結果を報告するとともに、内部監査室の監査計画、監査実施状況について情報共有し、意見交換を行っています。また、随時連絡を取ることにより意思疎通の円滑化を図っています。

・内部監査室は、財務報告の信頼性確保のための内部統制に関する監査計画、監査実施状況及び監査結果について、会計監査人と情報共有し意見交換するなど連携を図るとともに、代表取締役社長及び監査役会に報告しています。また内部監査室長がコンプライアンス委員会など重要な会議に出席することにより必要な情報を収集する体制を整備しています。

会計監査の状況

a. 監査法人の名称

監査法人アヴァンティア

当社は、監査法人アヴァンティアと監査契約を締結し、会計に関する事項の監査を受けておりますが、同監査法人及び当社監査に従事する同監査法人の業務執行社員との間には、特別の利害関係はありません。

b. 継続監査期間

2017年9月期以降

c. 業務を執行した公認会計士

指定社員業務執行社員 木村 直人

指定社員業務執行社員 藤田 憲三

d. 監査業務に係る補助者の構成

公認会計士6名、その他7名

e. 監査法人の選定方針と理由

当社の監査役会は、公益社団法人日本監査役協会が公表している「会計監査人の評価及び選定基準策定に関する監査役等の実務指針」等を参考に、会計監査人の品質管理の状況、独立性及び専門性、監査体制が整備されていること、具体的な監査計画並びに監査報酬が合理的かつ妥当であることを確認し、監査実績などを踏まえ、会計監査人を総合的に評価し、選定について判断しております。

会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、会計監査人の解任又は不再任を株主総会の会議の目的とすることといたします。

また、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。

f. 監査役及び監査役会による監査法人の評価

当社の監査役及び監査役会は、会計監査人における独立性・専門性及び監査活動の適切性・妥当性等に関する評価項目を設け、項目ごとに評価のために必要な資料を社内関係部門及び会計監査人から入手することや報告を受けることで、監査品質の評価を行っています。

監査報酬の内容等

a. 監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	36,200	-	34,800	-
連結子会社	1,000	-	1,000	-
計	37,200	-	35,800	-

(注) 前連結会計年度の金額には、前々連結会計年度に係る監査に対する追加報酬1,400千円を含めております。

b. 監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬(a.を除く)

該当事項はありません。

c. その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

d. 監査報酬の決定方針

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬は、監査公認会計士等より提示される監査計画の内容をもとに、監査時間等の妥当性を勘案、協議し、監査役会の同意を得たうえで決定することとしております。

e. 監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

当社の監査役会は、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ、検討した結果、会計監査人の報酬等につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

a．役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

取締役の個人別の報酬等の内容についての決定に関する方針は、取締役会の決議により決定します。取締役の個人別の報酬等は、取締役会において多角的に審議の上、決定しており、その内容は当該方針に沿うものであると判断しております。

当該方針の内容の概要は、次のとおりとなっております。

(a)基本方針

当社の取締役の報酬等は、企業価値の持続的な向上を図るインセンティブとして十分に機能するよう株主利益と連動した報酬体系とし、個々の取締役の報酬の決定に際しては各職責を踏まえた適正な水準とすることを基本方針とします。具体的には、代表取締役及び取締役（社外取締役を除く。）の報酬は、固定報酬としての基本報酬及び業績連動報酬等により構成し、監督機能を担う社外取締役については、その職務に鑑み、基本報酬のみを支払うこととします。

(b)基本報酬の決定に関する方針（取締役に対し報酬等を与える時期又は条件の決定に関する方針を含む。）

当社の取締役の基本報酬は、月例の固定金銭報酬とし、役位、職責、在任年数、他社の水準、当社の業績、従業員給与の水準等を考慮の上、決定します。

(c)業績連動報酬等及び非金銭報酬等の決定に関する方針（取締役に対し報酬等を与える時期又は条件の決定に関する方針を含む。）

企業価値の持続的な向上を図るインセンティブとして十分に機能するよう、業績連動報酬の趣旨を取り入れた譲渡制限付株式（契約により譲渡制限が課されるものを含む。）による報酬を設定します。取締役の保有する株式の数、役位、職責、在任年数、他社の水準、当社の業績、従業員給与の水準等を考慮の上、付与の有無及び報酬を与える時期又は条件を含めて、その内容を決定します。

業績連動報酬等の額の算定の基礎として選定した当社の業績指標の内容は、売上高、営業利益等の財務指標であり、経営陣幹部として業績や経営戦略に紐付いたインセンティブの付与の観点から選定しております。

(d)取締役の個人別の報酬等の額に対する割合の決定に関する方針

代表取締役及び取締役（社外取締役を除く。）の基本報酬及び業績連動報酬等の割合は、報酬の性質、職責、在任年数等を考慮の上、決定します。社外取締役の報酬は、基本報酬が全てを占めます。

b．役員の報酬等に関する株主総会の決議があるときの当該株主総会の決議年月日及び当該決議の内容

取締役の報酬等については、2013年1月24日開催の臨時株主総会の決議により承認された年額200,000千円（使用人分給与を含まない。）の範囲内で、2019年12月20日開催の取締役会において、各取締役の職責や実績等を勘案し、報酬額を決定しております。当該臨時株主総会の決議時の取締役の員数は5名でした。

なお、取締役（社外取締役を除く。）の報酬については、上記年額報酬の枠内で、2019年12月20日開催の定時株主総会の決議により、年額100,000千円の範囲内で譲渡制限付株式の付与のための金銭報酬債権の報酬としての支給が承認されておりますが、特に取締役の保有する株式の数、当社の業績、従業員給与の水準等を考慮の上、支給条件に満たさなかったため、当事業年度において支給の決定を行っておりません。当該定時株主総会の決議時の取締役（社外取締役を除く。）の員数は2名でした。

監査役の報酬等については、2012年12月19日開催の定時株主総会の決議により承認された年額30,000千円の範囲内で、監査役会において決定しております。なお、当該定時株主総会の決議時の監査役の員数は3名でした。

c．役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定権限を有する者の氏名又は名称、その権限の内容及び裁量の範囲

当社の役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定権限を有する者は取締役会であり、aのとおり基本方針を定めており、その範囲内において、適切にその権限を行使します。

d．役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定に關与する委員会等の手続の概要

当社は役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定に關与する委員会は設置しておりませんので、該当事項はありません。

e．当事業年度における役員の報酬等の額の決定過程における取締役会及び委員会等の活動内容

取締役会において、取締役の保有する株式の数、役位、職責、在任年数、他社の水準、当社の業績、従業員給与の水準等を考慮の上、社外役員の意見も踏まえて多角的に検討しております。

f．当事業年度における業績連動報酬に係る指標の目標及び実績

業績連動報酬等の額の算定の基礎として選定した当社の業績指標の内容は、売上高、営業利益等の財務指標であり、その目標とそれに対する実績は、それぞれ10,900百万円に対して8,384百万円、1,300百万円に対して578万円となっております。当連結会計年度においては、特に取締役の保有する株式の数、当社の実績、従業員給与の水準等を考慮の上、支給条件を満たさなかったため、業績連動報酬の支給はありません。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)				対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	左記のうち、 非金銭報酬	
取締役 (社外取締役を除く)	24,240	24,240	-	-	-	2
監査役 (社外監査役を除く)	-	-	-	-	-	-
社外役員	18,000	18,000	-	-	-	6

役員ごとの連結報酬等の総額

役員報酬等の総額が1億円以上であるものが存在しないため、記載していません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、株式の価値の変動や株式に係る配当によって利益を受けることを目的として保有する株式を、純投資目的である投資株式としております。一方、それ以外の株式を純投資目的以外の目的である投資株式(政策保有株式)に区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式  
該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額 の合計額(千円)	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額 の合計額(千円)
非上場株式	42	0	55	413,033
非上場株式以外の株式	3	2,424,201	3	6,388,400

区分	当事業年度		
	受取配当金の 合計額(千円)	売却損益の 合計額(千円)	評価損益の 合計額(千円)
非上場株式	-	102,306	292,050
非上場株式以外の株式	-	1,464,339	-

## 第5 【経理の状況】

### 1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2020年10月1日から2021年9月30日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2020年10月1日から2021年9月30日まで)の財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる監査を受けております。

また、金融商品取引法第24条の2第1項の規定に基づき、有価証券報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の連結財務諸表及び財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる監査を受けております。

### 3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等について迅速に対応できる体制を整備するため、財務・会計専門情報誌の定期購読及び監査法人やディスクロージャー支援会社等が主催するセミナーへ積極的に参加しております。



1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当連結会計年度 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	2,704,994	3,096,874
受取手形及び売掛金	923,598	708,737
営業投資有価証券	7,292,436	2,994,026
商品	309,199	248,315
仕掛品	314	-
貯蔵品	536	511
未収入金	203,662	264,877
その他	516,648	611,890
貸倒引当金	33,359	287,050
流動資産合計	11,918,031	7,638,182
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	50,358	48,828
工具、器具及び備品（純額）	27,774	19,421
その他（純額）	6,041	5,393
有形固定資産合計	<sup>1</sup> 84,173	<sup>1</sup> 73,643
無形固定資産		
のれん	276,154	186,897
ソフトウェア	465,271	275,454
ソフトウェア仮勘定	19,740	5,644
その他	1,810	1,509
無形固定資産合計	762,976	469,506
投資その他の資産		
長期貸付金	44,175	34,049
繰延税金資産	163,619	139,341
その他	158,099	151,568
貸倒引当金	-	19,008
投資その他の資産合計	365,894	305,952
固定資産合計	1,213,044	849,102
資産合計	13,131,075	8,487,284

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当連結会計年度 (2021年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	176,310	89,002
短期借入金	<sup>2</sup> 1,133,332	<sup>2</sup> 1,000,000
1年内返済予定の長期借入金	337,108	319,976
未払法人税等	396,748	27,855
未払金	407,941	531,798
ポイント引当金	1,065	12,748
その他	199,196	260,591
流動負債合計	2,651,702	2,241,972
固定負債		
長期借入金	698,409	378,433
繰延税金負債	1,685,454	404,657
その他	5,997	4,179
固定負債合計	2,389,861	787,270
負債合計	5,041,564	3,029,243
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	884,082	884,082
資本剰余金	854,922	818,258
利益剰余金	2,130,461	2,308,014
自己株式	203,171	203,380
株主資本合計	3,666,295	3,806,976
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,410,224	1,644,097
その他の包括利益累計額合計	4,410,224	1,644,097
新株予約権	6,968	6,968
非支配株主持分	6,023	-
純資産合計	8,089,511	5,458,041
負債純資産合計	13,131,075	8,487,284

【連結損益及び包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
売上高	7,437,424	8,384,968
売上原価	4,350,056	4,855,329
売上総利益	3,087,368	3,529,639
販売費及び一般管理費	<sup>1, 2</sup> 2,307,839	<sup>1, 2</sup> 2,950,971
営業利益	779,528	578,667
営業外収益		
受取利息及び配当金	904	767
為替差益	-	805
助成金収入	665	570
受取手数料	35,784	49,894
その他	5,159	8,478
営業外収益合計	42,513	60,515
営業外費用		
支払利息	8,809	9,605
リース解約損	4,202	-
控除対象外消費税等	2,214	8,224
その他	3,400	126
営業外費用合計	18,627	17,956
経常利益	803,414	621,226
特別利益		
子会社株式売却益	-	34,685
新株予約権戻入益	92	-
特別利益合計	92	34,685
特別損失		
減損損失	<sup>4</sup> 77,156	<sup>4</sup> 275,657
固定資産売却損	<sup>3</sup> 859	-
賃貸借契約解約損	14,699	-
関係会社整理損	1,463	-
その他	0	20,841
特別損失合計	94,178	296,499
税金等調整前当期純利益	709,328	359,412
法人税、住民税及び事業税	435,454	212,377
法人税等調整額	148,859	31,032
法人税等合計	286,595	181,345
当期純利益	422,732	178,066
(内訳)		
親会社株主に帰属する当期純利益	423,120	177,553
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に 帰属する当期純損失( )	387	513
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,419,610	2,766,127
その他の包括利益合計	<sup>5</sup> 4,419,610	<sup>5</sup> 2,766,127
包括利益	4,842,342	2,588,060
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	4,842,730	2,588,574
非支配株主に係る包括利益	387	513

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	861,157	831,997	1,707,341	203,171	3,197,324
当期変動額					
新株の発行 (新株予約権の行使)	22,925	22,925			45,850
親会社株主に帰属する 当期純利益			423,120		423,120
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	22,925	22,925	423,120	-	468,970
当期末残高	884,082	854,922	2,130,461	203,171	3,666,295

	その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計			
当期首残高	9,385	9,385	7,130	6,410	3,201,480
当期変動額					
新株の発行 (新株予約権の行使)					45,850
親会社株主に帰属する 当期純利益					423,120
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	4,419,610	4,419,610	162	387	4,419,060
当期変動額合計	4,419,610	4,419,610	162	387	4,888,030
当期末残高	4,410,224	4,410,224	6,968	6,023	8,089,511

当連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	884,082	854,922	2,130,461	203,171	3,666,295
当期変動額					
親会社株主に帰属する 当期純利益			177,553		177,553
自己株式の取得				208	208
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動		36,663			36,663
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	36,663	177,553	208	140,680
当期末残高	884,082	818,258	2,308,014	203,380	3,806,976

	その他の包括利益累計額		新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括利益 累計額合計			
当期首残高	4,410,224	4,410,224	6,968	6,023	8,089,511
当期変動額					
親会社株主に帰属する 当期純利益					177,553
自己株式の取得					208
非支配株主との取引に 係る親会社の持分変動					36,663
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	2,766,127	2,766,127	-	6,023	2,772,150
当期変動額合計	2,766,127	2,766,127	-	6,023	2,631,469
当期末残高	1,644,097	1,644,097	6,968	-	5,458,041

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	709,328	359,412
減価償却費	242,021	232,139
のれん償却額	115,135	112,410
減損損失	77,156	275,657
貸倒引当金の増減額(は減少)	24,344	272,698
ポイント引当金の増減額(は減少)	2,797	11,683
受取利息及び受取配当金	904	767
受取手数料	35,784	49,894
支払利息	8,809	9,605
子会社株式売却損益(は益)	-	34,685
固定資産売却損益(は益)	859	-
賃貸借契約解約損	14,699	-
売上債権の増減額(は増加)	377,146	222,222
営業投資有価証券の増減額(は増加)	354,199	276,795
たな卸資産の増減額(は増加)	184,720	48,878
仕入債務の増減額(は減少)	78,488	83,597
未払金の増減額(は減少)	75,053	106,942
その他	66,035	72,606
小計	959,111	1,734,352
利息及び配当金の受取額	904	765
利息の支払額	9,019	9,570
賃貸借契約解約による支払額	14,699	-
法人税等の支払額	148,072	599,726
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>788,225</b>	<b>1,125,821</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	7,519	7,557
無形固定資産の取得による支出	300,842	265,922
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	-	<sup>2</sup> 5,902
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	<sup>2</sup> 20,435
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	-	<sup>3</sup> 19,969
差入保証金の回収による収入	13,893	900
差入保証金の差入による支出	100	600
貸付金の回収による収入	10,185	11,125
その他	3,027	19,800
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>287,410</b>	<b>276,757</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入れによる収入	1,700,000	-
短期借入金の返済による支出	866,668	133,332
長期借入れによる収入	500,000	-
長期借入金の返済による支出	435,652	327,786
社債の償還による支出	125,000	-
自己株式の取得による支出	-	208
新株予約権の行使による株式の発行による収入	45,780	-
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	-	43,200
リース債務の返済による支出	2,682	1,757
手数料の受取額	35,784	49,894
その他	2,416	-
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>849,145</b>	<b>456,389</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	537	795
現金及び現金同等物の増減額（は減少）	1,350,498	391,879
現金及び現金同等物の期首残高	1,354,496	2,704,994
現金及び現金同等物の期末残高	<sup>1</sup> 2,704,994	<sup>1</sup> 3,096,874

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

すべての子会社を連結しております。

連結子会社の数 4社

連結子会社の名称

株式会社SynaBiz

株式会社オークファンインキュベート

オークファンインキュベートファンド1号投資事業有限責任組合

株式会社オークファンパートナーズ

株式会社オークファンパートナーズについては、みなし取得日を2021年1月1日とした株式取得に伴い当連結会計年度より連結の範囲に含めております。

株式会社承知しましたについては、みなし取得日を2021年1月1日とした株式取得に伴い当連結会計年度より連結の範囲に含めておりましたが、2021年9月7日を効力発生日として、株式会社オークファンを存続会社とする吸収合併を行ったため、連結の範囲から除外しております。

前連結会計年度において、連結子会社でありました株式会社スマートソーシングについては、2021年9月7日を効力発生日として、株式会社オークファンを存続会社とする吸収合併を行ったため、連結の範囲から除外しております。

前連結会計年度において、連結子会社でありました株式会社ネットプライスについては、保有株式を売却したため、連結の範囲から除外しております。なお、持分比率減少時までの損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書のみを連結しております。

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の事業年度の末日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券(営業投資有価証券を含む)

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

なお、投資事業有限責任組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。



#### たな卸資産

##### 商品

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

##### 仕掛品

個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

##### 貯蔵品

移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

#### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

##### 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	3年～15年
工具、器具及び備品	2年～15年
その他の有形固定資産	2年～4年

##### 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

自社利用のソフトウェア	社内における利用可能期間(5年以内)
その他の無形固定資産	10年

#### リース資産

##### 所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額については、リース契約上の残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のは零とする定額法を採用しております。

#### (3) 重要な引当金の計上基準

##### 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

##### ポイント引当金

会員プロモーションのために付与したポイントの使用に備えるため、当連結会計年度末において将来利用されると見込まれるポイントに対してその費用負担額をポイント引当金として計上しております。

#### (4) 重要な外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。また、外貨建の他の有価証券は連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部におけるその他有価証券評価差額金に含めております。

#### (5) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、効果の発現する期間を合理的に見積り(5～8年)、当該期間にわたり均等償却しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当連結会計年度の費用として処理しております。

(重要な会計上の見積り)

(繰延税金資産の回収可能性)

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

繰延税金資産	139,341千円
--------	-----------

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

繰延税金資産を計上するにあたり、その回収可能性について、将来減算一時差異の解消スケジュール、将来課税所得の見積り等に基づき判断しております。将来課税所得の見積りは将来の事業計画を基礎として算定しており、スケジュールリング可能な一時差異に係る繰延税金資産について回収可能性があるものと判断しております。課税所得の見積りは、将来の不確実な経済状況の変動によって影響を受ける可能性があり、実際に発生した金額が将来課税所得の見積りと異なった場合、翌連結会計年度の連結財務諸表において認識される繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

(未適用の会計基準等)

## 1. 収益認識に関する会計基準等

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日)

### (1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準であります。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1：顧客との契約を識別する。

ステップ2：契約における履行義務を識別する。

ステップ3：取引価格を算定する。

ステップ4：契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5：履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

### (2) 適用予定日

2022年9月期の期首より適用予定であります。

### (3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

## 2. 時価の算定に関する会計基準等

- ・「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日)
- ・「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日)
- ・「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 2019年7月4日)
- ・「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)
- ・「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2020年3月31日)

### (1) 概要

国際的な会計基準の定めとの比較可能性を向上させるため、「時価の算定に関する会計基準」及び「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(以下「時価算定会計基準等」という。)が開発され、時価の算定方法に関するガイダンス等が定められました。時価算定会計基準等は、以下の項目の時価に適用されます。

- ・「金融商品に関する会計基準」における金融商品
- ・「棚卸資産の評価に関する会計基準」におけるトレーディング目的で保有する棚卸資産

また「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」が改訂され、金融商品の時価のレベルごとの内訳等の注記事項が定められました。

### (2) 適用予定日

2022年9月期の期首より適用予定であります。

なお、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(2021年改正)については、2023年9月期の期首より適用予定であります。

### (3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度において独立掲記しておりました「特別損失」の「固定資産除却損」は、金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「特別損失」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組み替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「特別損失」の「固定資産除却損」に表示していた0千円は、「その他」として組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度において独立掲記しておりました「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「固定資産除却損」は、金額の重要性が乏しくなったため、当連結会計年度より「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組み替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「固定資産除却損」に表示していた0千円は、「その他」として組み替えております。

(「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用)

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を当連結会計年度の年度末に係る連結財務諸表から適用し、連結財務諸表に重要な会計上の見積りに関する注記を記載しております。ただし、当該注記においては、当該会計基準第11項ただし書きに定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度に係る内容については記載しておりません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症の影響について)

新型コロナウイルス感染症の影響に関して、当社グループでは、各事業拠点において、厳重な対策を実施した上で事業活動を継続しており、当社グループの業績への影響は限定的であると見込んでおります。

新型コロナウイルス感染症は、企業活動に広範な影響を与える事象であり、また、今後の広がり方や収束時期等を予測することは困難であります。当社グループでは、外部の情報源に基づき、新型コロナウイルス感染症の影響を織り込んだ結果、その影響は軽微であると考えております。

(不適切な会計処理について)

当社は以下のとおり、不適切な会計処理が発生していた事実を認識致しました。

当社は、連結完全子会社である株式会社SynaBiz(以下、「当該連結子会社」といいます。)において2022年9月期を含む複数事業年度に渡って不適切な取引及び不適切な会計処理が行われていた疑念があることを認識いたしました。そのため、2022年10月21日に外部の弁護士及び公認会計士により構成される特別調査委員会を設置して調査を進めてまいりました。

その結果、2023年1月13日に同委員会より調査報告書を受領し、当該連結子会社における架空取引における収益の過大計上及び費用の繰延べ、並びに、当社における収益の過大計上及び収益の先行計上、費用の繰延べ等の事実が判明しました。

このため、当社は、過去に提出済みの有価証券報告書に記載されております連結財務諸表で対象となる部分について訂正を行い、2023年1月31日に訂正報告書を提出いたしました。

なお、訂正に際して、過年度において重要性がないため訂正を行っていなかった他の未修正事項の訂正も併せて行っております。

上記訂正による、各連結会計年度における財務数値への影響は、下記のとおりです。

(単位：千円)

決算年月	2019年9月期	2020年9月期	2021年9月期	2022年9月期
売上高	99,944	437,055	40,173	6,900
販売費及び一般管理費	-	2,500	3,694	6,900
営業利益	20,496	41,356	4,765	-
親会社株主に帰属する当期純利益	20,558	5,572	26,130	-
総資産額	19,412	251,869	-	-
純資産額	20,558	26,130	-	-

(連結貸借対照表関係)

- 1 有形固定資産の減価償却累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当連結会計年度 (2021年9月30日)
有形固定資産の減価償却累計額	197,674千円	189,745千円

- 2 当座貸越契約

当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と当座貸越契約を締結しております。  
連結会計年度末における当座貸越契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当連結会計年度 (2021年9月30日)
当座貸越極度額の総額	1,200,000千円	1,200,000千円
借入実行残高	1,000,000千円	1,000,000千円
差引額	200,000千円	200,000千円

(連結損益及び包括利益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
給料手当	508,511千円	572,997千円
広告宣伝費	215,620	280,742
支払手数料	243,380	260,384
荷造運賃	269,212	234,071
業務委託料	240,480	226,571
貸倒引当金繰入額	24,344	272,698
ポイント引当金繰入額	2,797	11,683

2 一般管理費に含まれる研究開発費の総額

前連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
2,400千円	58,742千円

3 固定資産売却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
工具、器具及び備品	859千円	- 千円

4 減損損失

当社グループは、以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

前連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

(1) 減損損失を認識した資産グループの概要

場所	事業名	用途	種類
東京都品川区	在庫価値ソリューション	事業用資産	ソフトウェア
東京都品川区	商品流通プラットフォーム	事業用資産	ソフトウェア

(2) 減損損失の認識に至った経緯

当連結会計年度において、営業活動から生ずるキャッシュ・フローが継続してマイナス又は継続してマイナスとなる見込みである資産グループについて、当初想定していた収益を見込めなくなったため、帳簿価額の全額を減損損失として計上しました。

(3) 減損損失の金額

ソフトウェア 77,156千円

(4) 資産のグルーピングの方法

原則として、事業単位によって資産のグルーピングを行っております。

(5) 回収可能性の算定方法

回収可能性について、当資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスのため、回収可能価額を零として算定しております。

当連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

(1) 減損損失を認識した資産グループの概要

場所	事業名	用途	種類
東京都品川区	在庫価値ソリューション	事業用資産	ソフトウェア
			ソフトウェア仮勘定
愛媛県松山市	商品流通プラットフォーム	事業用資産	のれん
東京都品川区			ソフトウェア

(2) 減損損失の認識に至った経緯

当連結会計年度において、営業活動から生ずるキャッシュ・フローが継続してマイナス又は継続してマイナスとなる見込みである資産グループについて、当初想定していた収益を見込めなくなったため、帳簿価額の全額を減損損失として計上しました。

(3) 減損損失の金額

のれん	18,498千円
ソフトウェア	227,598千円
ソフトウェア仮勘定	29,561千円

(4) 資産のグルーピングの方法

原則として、事業単位によって資産のグルーピングを行っております。

(5) 回収可能性の算定方法

回収可能性について、当資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しており、将来キャッシュ・フローに基づく使用価値がマイナスのため、回収可能価額を零として算定しております。

5 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	7,413,071千円	2,646,886千円
組替調整額	1,045,041	1,344,728
税効果調整前	6,368,029	3,991,614
税効果額	1,948,419	1,225,487
その他有価証券評価差額金	4,419,610	2,766,127
その他の包括利益合計	4,419,610	2,766,127

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式(注)1	10,469,400	70,000	-	10,539,400
合計	10,469,400	70,000	-	10,539,400
自己株式				
普通株式(注)2	216,851	82	-	216,933
合計	216,851	82	-	216,933

(注) 1. 普通株式の発行済株式総数の増加70,000株は、新株予約権の行使による増加であります。

2. 自己株式の増加82株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権 の目的とな る株式の種 類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (千円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社	第8回ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	33
	第9回ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	14
	第11回ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	253
	第12回ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	3,676
	第13回ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	2,990
合計		-	-	-	-	-	6,968

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。



当連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	10,539,400	-	-	10,539,400
合計	10,539,400	-	-	10,539,400
自己株式				
普通株式(注)1	216,933	57	-	216,990
合計	216,933	57	-	216,990

(注) 1. 自己株式の増加57株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

区分	新株予約権の内訳	新株予約権 の目的とな る株式の種 類	新株予約権の目的となる株式の数(株)				当連結会計 年度末残高 (千円)
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末	
提出会社	第8回ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	33
	第9回ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	14
	第11回ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	253
	第12回ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	3,676
	第13回ストック・オプションとしての新株予約権	-	-	-	-	-	2,990
合計		-	-	-	-	-	6,968

3. 配当に関する事項

該当事項はありません。

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
現金及び預金勘定	2,704,994千円	3,096,874千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	- "	- "
現金及び現金同等物	2,704,994 "	3,096,874 "

2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

株式の取得により新たに連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに株式の取得価額と取得に伴う収入(純額)及び支出(純額)との関係は次のとおりであります。

株式会社オークファンパートナーズ

流動資産	18,689 千円
固定資産	21,512 千円
のれん	21,763 千円
流動負債	31,965 千円
取得価額	30,000 千円
支配獲得時までの取得金額	30,000 千円
現金及び現金同等物	5,902 千円
差引：連結範囲の変更を伴う子会社株式取得による収入	5,902 千円

株式会社承知しました

流動資産	12,787 千円
のれん	19,890 千円
流動負債	1,678 千円
取得価額	31,000 千円
現金及び現金同等物	10,564 千円
差引：連結範囲の変更を伴う子会社株式取得による支出	20,435 千円

3 株式の売却により連結子会社でなくなった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

株式の売却により株式会社ネットプライスが連結子会社でなくなったことに伴う連結除外時の資産及び負債の内訳並びに株式売却価額と売却による支出は次のとおりであります。

流動資産	22,939 千円
固定資産	706 千円
流動負債	58,332 千円
子会社株式売却益	34,685 千円
売却価額	0 千円
現金及び現金同等物	19,969 千円
差引：連結範囲の変更を伴う子会社株式売却による支出	19,969 千円

(リース取引関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用に関しては、短期的な預金等に限定し、また、資金調達については自己資金からの充  
当、銀行等金融機関からの借入れ、及び社債の発行による方針であります。また、デリバティブ取引に関しては行  
わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金及び貸付金は、顧客及び貸付先の信用リスクを抱えております。当該リスクにつきましては  
は与信管理規程に従い、主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日管理及び残高管理を  
行うとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。営業投資有価証券は投資  
育成を目的としたベンチャー企業投資に関連する株式であり、投資先の信用リスク及び市場価格の変動リスクに晒  
されております。営業投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、ま  
た、取引先企業等との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

営業債務である買掛金等は、1年以内の支払期日となっております。また、買掛金、借入金及び社債は流動性リ  
スクに晒されておりますが、当該リスクにつきましては、月次単位での支払予定を把握するなどの方法により、当  
該リスクを管理しております。また、ファイナンス・リース取引に係るリース債務は、主に設備投資に係る資金調  
達を目的としたものであります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

為替及び金利の変動リスクについては、常時モニタリングしており、リスクの軽減に努めております。

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

営業債権については、主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに決済期日及び残高を管理  
するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

非上場株式及び投資事業有限責任組合への出資については、定期的に発行体の財務状況を把握し、保有状況を継  
続的に見直しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれ  
ております。当該価額の算定においては、変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件を採用することによ  
り、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが  
極めて困難と認められるものは含まれておりません((注)2.参照)。

前連結会計年度(2020年9月30日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	2,704,994	2,704,994	-
(2) 受取手形及び売掛金	923,598	923,598	-
(3) 営業投資有価証券	6,388,400	6,388,400	-
(4) 未収入金	203,662	203,662	-
(5) 短期貸付金及び長期貸付金 ( 1 )	54,141	54,053	88
資産計	10,274,796	10,274,708	88
(1) 買掛金	176,310	176,310	-
(2) 短期借入金	1,133,332	1,133,332	-
(3) 未払金	407,941	407,941	-
(4) 長期借入金(1年内返済予定の 長期借入金含む)	1,035,517	1,034,942	574
(5) リース債務(1年内返済予定の リース債務含む) ( 2 )	7,754	8,250	496
負債計	2,760,855	2,760,777	78

( 1 ) 短期貸付金及び長期貸付金には、流動資産の「その他」に含めて表示している短期貸付金を含めておりません。

( 2 ) リース債務(1年内返済予定のリース債務含む)には、流動負債の「その他」に含めて表示している1年内返済予定のリース債務、及び、固定負債の「その他」に含めて表示しているリース債務を含めておりません。

当連結会計年度(2021年9月30日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価(千円)	差額(千円)
(1) 現金及び預金	3,096,874	3,096,874	-
(2) 受取手形及び売掛金	708,737	708,737	-
(3) 営業投資有価証券	2,424,201	2,424,201	-
(4) 未収入金	264,877	264,877	-
(5) 短期貸付金及び長期貸付金 ( 1 )	44,015	43,921	93
資産計	6,538,706	6,538,612	93
(1) 買掛金	89,002	89,002	-
(2) 短期借入金	1,000,000	1,000,000	-
(3) 未払金	531,798	531,798	-
(4) 長期借入金(1年内返済予定の 長期借入金含む)	698,409	697,893	515
(5) リース債務(1年内返済予定の リース債務含む) ( 2 )	5,997	6,271	274
負債計	2,325,207	2,324,965	241

( 1 ) 短期貸付金及び長期貸付金には、流動資産の「その他」に含めて表示している短期貸付金を含めておりません。

( 2 ) リース債務(1年内返済予定のリース債務含む)には、流動負債の「その他」に含めて表示している1年内返済予定のリース債務、及び、固定負債の「その他」に含めて表示しているリース債務を含めておりません。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

- (1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(4) 未収入金  
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
- (3) 営業投資有価証券  
これらの時価については、株式は取引所の価格によっております。
- (5) 短期貸付金及び長期貸付金  
これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規貸付を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負 債

- (1) 買掛金、(2) 短期借入金、(3) 未払金  
これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。
- (4) 長期借入金(1年内返済予定の長期借入金含む)、(5) リース債務(1年内返済予定のリース債務含む)  
これらの時価については、元利金の合計額を同様の新規借入又はリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当連結会計年度 (2021年9月30日)
非上場株式( )	596,474	305,411
非上場債券等( )	40,580	0
投資事業有限責任組合への出資 ( )	206,981	264,412
新株予約権( )	60,000	0

( ) これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象としておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2020年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,704,994	-	-	-
受取手形及び売掛金	923,598	-	-	-
短期貸付金及び長期貸付金( )	9,965	40,023	4,152	-
合計	3,638,559	40,023	4,152	-

( ) 短期貸付金及び長期貸付金には、流動資産の「その他」に含めて表示している短期貸付金を含めております。

当連結会計年度(2021年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	3,096,874	-	-	-
受取手形及び売掛金	708,737	-	-	-
短期貸付金及び長期貸付金( )	9,965	34,049	-	-
合計	3,815,577	34,049	-	-

( ) 短期貸付金及び長期貸付金には、流動資産の「その他」に含めて表示している短期貸付金を含めております。

4. 長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額  
前連結会計年度(2020年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	1,133,332	-	-	-	-	-
長期借入金	337,108	319,976	215,087	99,996	63,350	-
リース債務	1,757	1,817	1,880	1,381	847	71
合計	1,472,197	321,793	216,967	101,377	64,197	71

( ) リース債務(1年内返済予定のリース債務含む)には、流動負債の「その他」に含めて表示している1年内返済予定のリース債務、及び、固定負債の「その他」に含めて表示しているリース債務を含めております。

当連結会計年度(2021年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)
短期借入金	1,000,000	-	-	-	-	-
長期借入金	319,976	215,087	99,996	63,350	-	-
リース債務	1,817	1,880	1,381	847	71	-
合計	1,321,793	216,967	101,377	64,197	71	-

( ) リース債務(1年内返済予定のリース債務含む)には、流動負債の「その他」に含めて表示している1年内返済予定のリース債務、及び、固定負債の「その他」に含めて表示しているリース債務を含めております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券(営業投資有価証券を含む)

前連結会計年度(2020年9月30日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	6,422,485	58,719	6,363,766
	(2) その他	31,517	30,374	1,143
	小計	6,454,003	89,093	6,364,909
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	562,388	564,753	2,364
	(2) 債券	40,580	40,858	278
	(3) その他	235,464	239,086	3,622
	小計	838,432	844,698	6,265
合計		7,292,436	933,792	6,358,644

当連結会計年度(2021年9月30日)

	種類	連結貸借対照表 計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	2,469,627	102,027	2,367,600
	(2) その他	96,827	93,464	3,362
	小計	2,566,454	195,491	2,370,962
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	259,985	259,985	0
	(2) 債券	0	0	-
	(3) その他	167,585	171,519	3,933
	小計	427,571	431,504	3,933
合計		2,994,026	626,996	2,367,029

2. 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

区分	売却額(千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
(1) 株式	1,258,700	1,238,800	-
(2) その他	5,000	-	-

当連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

区分	売却額(千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
(1) 株式	1,669,395	1,569,985	-
(2) その他	11,957	11,957	-

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度(2020年9月30日)

当連結会計年度において、営業投資有価証券について682,416千円(その他有価証券の上場株式12,230千円、非上場株式568,841千円、債券等101,345千円)減損処理を行っております。

当連結会計年度(2021年9月30日)

当連結会計年度において、営業投資有価証券について446,401千円(その他有価証券の非上場株式345,543千円、債券等100,857千円)減損処理を行っております。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる非上場株式については、発行会社の財政状態の悪化等により、実質価額が取得原価に比べて著しく下落した場合には、回復可能性等を考慮して減損処理を行っております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社及び一部の連結子会社は、確定拠出年金制度を採用しております。

2. 確定拠出年金制度

当社及び連結子会社の確定拠出年金制度への要拠出額は、前連結会計年度542千円、当連結会計年度406千円であります。



(ストック・オプション等関係)

1. スtock・オプションに係る費用計上額及び科目名

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
販売費及び一般管理費の株式報酬費用	-	-

2. 権利不行使による失効により利益として計上した金額

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
新株予約権戻入益	92	-

3. スtock・オプションの内容、規模及びその変動状況

(1) スtock・オプションの内容

	第8回 新株予約権	第9回 新株予約権	第11回 新株予約権	第12回 新株予約権	第13回 新株予約権
付与対象者の区分及び人数	当社取締役3名 当社従業員19名	当社取締役3名 当社監査役3名 当社従業員26名	当社取締役1名	当社取締役2名 当社監査役1名 当社従業員14名 子会社取締役2名 子会社従業員7名	当社取締役1名 当社執行役員4名 当社従業員23名 子会社取締役1名 子会社執行役員1名 子会社従業員7名
株式の種類別の ストック・オプションの数 (注)1、2	普通株式 225,000株	普通株式 192,500株	普通株式 878,000株	普通株式 486,900株	普通株式 393,900株
付与日	2011年12月30日	2012年12月25日	2016年2月4日	2016年3月31日	2017年8月21日
権利確定条件	(注)3	同左	(注)4	(注)5	(注)6
対象勤務期間	期間の定めなし	同左	同左	同左	同左
権利行使期間	2013年12月31日 ～ 2021年12月30日	2014年12月26日 ～ 2022年12月18日	2016年2月4日 ～ 2026年2月3日	2018年1月1日 ～ 2023年3月30日	2019年1月1日 ～ 2024年8月20日

(注) 1. 株式数に換算して記載しております。

2. 2013年1月15日付株式分割(1株につき500株)及び2013年10月1日付株式分割(1株につき5株)による株式分割後の株式数に換算して記載しております。

3. 権利確定条件は次のとおりであります。

新株予約権者は、権利行使時においても、当社又は当社の子会社の取締役、監査役、執行役員及び従業員又はこれらに準じる地位にあることを要する。

その他の条件は、当社と新株予約権者との間で締結する新株予約権割当契約に定めるところによる。

4. 割当日から本新株予約権の行使期間の終期に至るまでの間に東京証券取引所における当社普通株式の普通取引終値が一度でも本新株予約権の発行に係る取締役会決議日の直前営業日である2016年1月19日の東京証券取引所における当社普通株式の終値である金634円に50%を乗じた価格を下回った場合、新株予約権者は残存するすべての本新株予約権を行使期間の満期日までに行使しなくてはならないものとする。但し、次に掲げる場合に該当するときはこの限りではない。

(a) 当社の開示情報に重大な疑義が含まれることが判明した場合

(b) 当社が法令や金融商品取引所の規則に従って開示すべき重要な事実を適正に開示していなかったことが判明した場合

(c) 当社が上場廃止となったり、倒産したり、その他本新株予約権発行日において前提とされていた事情に大きな変更が生じた場合

(d) その他、当社が新株予約権者の信頼を著しく害すると客観的に認められる行為をなした場合

- 新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。  
本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における授權株式数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。  
各本新株予約権 1 個未満の行使を行うことはできない。
- 5 . 新株予約権は、下記(a)及び(b)に掲げる各条件を充たした場合、各新株予約権者に割り当てられた本新株予約権のうち、それぞれ定められた割合(以下、「行使可能割合」という。)の個数を、当該条件を最初に充たした期の有価証券報告書の提出日の翌月 1 日から行使することができる。なお、行使可能な新株予約権の数に 1 個未満の端数が生じる場合は、これを切り捨てた数とする。
- (a) 2017年 9 月期乃至2019年 9 月期のうち、いずれかの期において当期純利益が475百万円以上である場合  
行使可能割合70%
- (b) 2017年 9 月期乃至2021年 9 月期のうち、いずれかの期において当期純利益が700百万円以上である場合  
行使可能割合100%
- 上記における当期純利益の判定においては、当社の有価証券報告書に記載される損益計算書(連結損益計算書を作成している場合、連結損益計算書)における数値を用いるものとし、国際財務報告基準の適用等により参照すべき当期純利益の概念に重要な変更があった場合には、当社は合理的な範囲内において、別途参照すべき適正な指標及び新株予約権の行使の条件として達成すべき数値を取締役会にて定めるものとする。
- 新株予約権者は、新株予約権の権利行使時において、当社又は当社関係会社の役員、執行役員、監査役又は従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りではない。
- 新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。  
本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における授權株式数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。  
各本新株予約権 1 個未満の行使を行うことはできない。
- 6 . 新株予約権は、下記(a)、(b)又は(c)に掲げる各条件を充たした場合、各新株予約権者に割り当てられた本新株予約権のうち、それぞれ定められた割合(以下、「行使可能割合」という。)の個数を、当該条件を最初に充たした期の有価証券報告書の提出日の翌月 1 日から行使することができる。なお、行使可能な新株予約権の数に 1 個未満の端数が生じる場合は、これを切り捨てた数とする。
- (a) 2018年 9 月期乃至2020年 9 月期のうち、いずれかの期において経常利益が700百万円以上である場合  
行使可能割合10%
- (b) 2018年 9 月期乃至2023年 9 月期のうち、いずれかの期において経常利益が1,000百万円以上である場合  
行使可能割合80%
- (c) 2018年 9 月期乃至2023年 9 月期のうち、いずれかの期において経常利益が1,500百万円以上である場合  
行使可能割合100%
- 上記における経常利益の判定においては、当社の有価証券報告書に記載される損益計算書(連結損益計算書を作成している場合、連結損益計算書)における数値を用いるものとし、国際財務報告基準の適用等により参照すべき経常利益の概念に重要な変更があった場合には、当社は合理的な範囲内において、別途参照すべき適正な指標及び新株予約権の行使の条件として達成すべき数値を取締役会にて定めるものとする。
- 新株予約権者は、新株予約権の権利行使時において、当社又は当社関係会社の役員、執行役員、監査役又は従業員であることを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りではない。
- 新株予約権者の相続人による本新株予約権の行使は認めない。  
本新株予約権の行使によって、当社の発行済株式総数が当該時点における授權株式数を超過することとなるときは、当該本新株予約権の行使を行うことはできない。  
各本新株予約権 1 個未満の行使を行うことはできない。

(追加情報)

「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況 (2)新株予約権等の状況 ストックオプション制度の内容」に記載すべき事項をストック・オプション等関係注記に集約して記載しております。

(2) ストック・オプションの規模及びその変動状況

当連結会計年度(2021年9月期)において存在したストック・オプションを対象とし、ストック・オプションの数については、株式数に換算して記載しております。

ストック・オプションの数

	第8回 新株予約権	第9回 新株予約権	第11回 新株予約権	第12回 新株予約権	第13回 新株予約権
権利確定前 (株)					
前連結会計年度末	-	-	-	-	-
付与	-	-	-	-	-
失効	-	-	-	-	-
権利確定	-	-	-	-	-
未確定残	-	-	-	-	-
権利確定後 (株)					
前連結会計年度末	10,000	7,500	253,600	367,600	332,300
権利確定	-	-	-	-	-
権利行使	-	-	-	-	-
失効	-	-	-	-	-
未行使残	10,000	7,500	253,600	367,600	332,300

(注) 2013年1月15日付株式分割(1株につき50株)及び2013年10月1日付株式分割(1株につき5株)による株式分割後の株式数に換算して記載しております。

単価情報

	第8回 新株予約権	第9回 新株予約権	第11回 新株予約権	第12回 新株予約権	第13回 新株予約権
権利行使価格 (円)	312	312	654	662	920
行使時平均株価 (円)	-	-	-	-	-
付与日における公正な評価 単価 (円)	8,420	4,926	100	1,000	900

(注) 2013年1月15日付株式分割(1株につき500株)及び2013年10月1日付株式分割(1株につき5株)による株式分割後の価格に換算して記載しております。

4. ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(追加情報)

(従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い等の適用)

「従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い」(実務対応報告第36号 平成30年(2018年)1月12日。以下「実務対応報告第36号」という。)等の適用日より前に従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与した取引については、実務対応報告第36号第10項(3)に基づいて、従来採用していた会計処理を継続しております。

## 1. 権利確定条件付き有償新株予約権の概要

### (1) 権利確定条件付き有償新株予約権の内容

第11回新株予約権、第12回新株予約権及び第13回新株予約権が対象となりますが、同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

### (2) 権利確定条件付き有償新株予約権の規模及びその変動状況

第11回新株予約権、第12回新株予約権及び第13回新株予約権が対象となりますが、同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

## 2. 採用している会計処理の概要

(権利確定日以前の会計処理)

- (1) 権利確定条件付き有償新株予約権の付与に伴う従業員等からの払込金額を、純資産の部に新株予約権として計上する。
- (2) 新株予約権として計上した払込金額は、権利不確定による失効に対応する部分を利益として計上する。

(権利確定日後の会計処理)

- (3) 権利確定条件付き有償新株予約権が権利行使され、これに対して新株を発行した場合、新株予約権として計上した額のうち、当該権利行使に対応する部分を払込資本に振り替える。
- (4) 権利不行使による失効が生じた場合、新株予約権として計上した額のうち、当該失効に対応する部分を利益として計上する。この会計処理は、当該失効が確定した期に行う。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当連結会計年度 (2021年9月30日)
繰延税金資産		
投資有価証券評価損	213,430千円	306,968千円
減損損失	36,787 "	12,299 "
減価償却超過額	69,675 "	126,329 "
税務上の繰越欠損金(注)	399,723 "	195,163 "
貸倒引当金	10,450 "	123,863 "
貸倒損失	22,171 "	18,840 "
その他	35,673 "	55,212 "
繰延税金資産小計	787,912 "	838,677 "
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額(注)	281,798 "	91,083 "
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	79,530 "	289,977 "
評価性引当額小計	361,328 "	381,060 "
繰延税金資産合計	426,584 "	457,616 "
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	1,948,419 "	722,932 "
繰延税金負債合計	1,948,419 "	722,932 "
繰延税金資産の純額	163,619千円	139,341千円
繰延税金負債の純額	1,685,454千円	404,657千円

(注) 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額  
前連結会計年度(2020年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越欠損金 ( 1 )	-	28,889	98,195	69,511	36,936	166,190	399,723
評価性引当額	-	-	9,159	69,511	36,936	166,190	281,798
繰延税金資産	-	28,889	89,035	-	-	-	( 2 )117,925

( 1 ) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

( 2 ) 税務上の繰越欠損金399,723千円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産117,925千円を計上しております。当該税務上の繰越欠損金については、将来の課税所得の見込み等により、回収可能と判断した部分については評価性引当額を認識しておりません。

当連結会計年度(2021年9月30日)

	1年以内 (千円)	1年超 2年以内 (千円)	2年超 3年以内 (千円)	3年超 4年以内 (千円)	4年超 5年以内 (千円)	5年超 (千円)	合計 (千円)
税務上の繰越欠損金 ( 3 )	-	90,699	51,090	6,748	-	46,625	195,163
評価性引当額	-	41,953	21,669	-	-	27,459	91,083
繰延税金資産	-	48,745	29,420	6,748	-	19,165	( 4 )104,080

( 3 ) 税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

( 4 ) 税務上の繰越欠損金195,163千円(法定実効税率を乗じた額)について、繰延税金資産104,080千円を計上しております。当該税務上の繰越欠損金については、将来の課税所得の見込み等により、回収可能と判断した部分については評価性引当額を認識しておりません。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった  
主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当連結会計年度 (2021年9月30日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4 "	4.9 "
住民税均等割	0.8 "	1.4 "
のれん償却額	5.3 "	9.5 "
所得拡大促進税制による税額控除	0.1 "	4.8 "
連結修正	6.3 "	5.7 "
評価性引当額の増減	7.9 "	2.7 "
連結子会社の適用税率差異	1.7 "	1.1 "
繰越欠損金	- "	5.1 "
その他	0.1 "	0.3 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	40.4%	50.5%

(資産除去債務関係)

当社は、本社事務所の不動産賃貸契約に基づく退去時における原状回復義務を資産除去債務として認識しておりますが、当該債務の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、「在庫価値ソリューション事業」、「商品流通プラットフォーム事業」及び「インキュベーション事業」の3つを報告セグメントとしております。

各セグメントに属するサービスの内容は、以下のとおりであります。

在庫価値ソリューション事業

価格比較メディア「aucfan.com（オークファン）」や流通相場データを活用した「オークファンプロPlus」、専門知識がなくても直感的に操作できるRPAツール「オークファンロボ」、複数のEマーケットプレイスへの同時出品・在庫連動等が可能なASPサービス「タテンポガイド」等

商品流通プラットフォーム事業

BtoB卸モール「NETSEA（ネッシー）」、滞留在庫・返品・型落ち品などの流動化支援サービス「NETSEAオークション（旧リバリュールBtoBモール）」、副業・複業として物販ビジネスを行なう事業主を対象とするスクール形式の副業支援サービス『goodseilers（グッドセラーズ）』等

インキュベーション事業

上記事業と関連性の高い事業への投資実行(キャピタルゲイン)及び同事業へのコンサルティングサービスの提供等

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。報告セグメントの利益又は損失は、営業利益ベースであり合計額は連結損益及び包括利益計算書の金額と一致しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(事業セグメントの利益又は損失の測定方法の変更)

報告セグメントの業績をより適切に反映させるため、当連結会計年度から各報告セグメントの費用の配賦方法を変更しております。

当該変更に伴い、従来の方法に比べて、当連結会計年度の「インキュベーション」のセグメント利益が16,995千円減少し、「調整額」のセグメント利益が16,995千円増加しております。

4. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報  
前連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	連結財務 諸表計上額 (注) 2
	在庫価値 ソリューション	商品流通 プラットフォーム	インキュ ベーション	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,789,412	4,377,928	1,270,084	7,437,424	-	7,437,424
セグメント間の内部 売上高又は振替高	142,899	6,214	-	149,113	149,113	-
計	1,932,311	4,384,142	1,270,084	7,586,538	149,113	7,437,424
セグメント利益	367,824	282,895	503,625	1,154,346	374,817	779,528
セグメント資産	674,895	2,572,715	7,331,581	10,579,191	2,551,884	13,131,075
その他の項目						
減価償却費	151,058	81,158	-	232,217	9,803	242,021
のれん償却額	-	115,135	-	115,135	0	115,135
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	234,576	76,618	-	311,194	6,485	317,679

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益の調整額 374,817千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。
  - (2) セグメント資産の調整額2,551,884千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社資産(現金及び預金、管理部門に係る有形固定資産等)が含まれております。
  - (3) 減価償却費の調整額9,803千円、のれん償却額の調整額0千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。
  - (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額6,485千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産(管理部門に係る有形固定資産等)が含まれております。
2. セグメント利益は、連結損益及び包括利益計算書の営業利益と一致しております。



当連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	連結財務 諸表計上額 (注) 2
	在庫価値 ソリューション	商品流通 プラットフォーム	インキュ ベーション	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,695,689	4,986,735	1,702,543	8,384,968	-	8,384,968
セグメント間の内部 売上高又は振替高	120,430	56,357	5,915	182,702	182,702	-
計	1,816,119	5,043,092	1,708,458	8,567,670	182,702	8,384,968
セグメント利益又は損失( )	338,714	259,441	874,969	954,242	375,575	578,667
セグメント資産	418,063	2,619,790	3,091,111	6,128,964	2,358,320	8,487,284
その他の項目						
減価償却費	154,645	68,144	-	222,790	9,349	232,139
のれん償却額	-	109,427	2,652	112,079	331	112,410
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	192,927	73,503	-	266,431	3,868	270,299

(注) 1. 調整額は、以下のとおりであります。

- (1) セグメント利益又は損失( )の調整額 375,575千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。
- (2) セグメント資産の調整額2,358,320千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社資産(現金及び預金、管理部門に係る有形固定資産等)が含まれております。
- (3) 減価償却費の調整額9,349千円、のれん償却額の調整額331千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれております。
- (4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額3,868千円は、各報告セグメントに配分していない全社資産(管理部門に係る有形固定資産等)が含まれております。

2. セグメント利益又は損失( )は、連結損益及び包括利益計算書の営業利益と一致しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	在庫価値 ソリューション	商品流通 プラットフォーム	インキュ ベーション	合計
外部顧客への売上高	1,789,412	4,377,928	1,270,084	7,437,424

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社SBI証券 (注) 2	1,231,246	インキュベーション

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 営業投資有価証券の売却による売上金額を記載しております。

当連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

1. 製品及びサービスごとの情報

(単位：千円)

	在庫価値 ソリューション	商品流通 プラットフォーム	インキュ ベーション	合計
外部顧客への売上高	1,695,689	4,986,735	1,702,543	8,384,968

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
野村証券株式会社 (注) 2	986,400	インキュベーション

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 営業投資有価証券の売却による売上金額を記載しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

(単位:千円)

	在庫価値 ソリューション	商品流通 プラットフォーム	インキュ ベーション	計	全社・消去	合計
減損損失	52,299	24,857	-	77,156	-	77,156

当連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

(単位:千円)

	在庫価値 ソリューション	商品流通 プラットフォーム	インキュ ベーション	計	全社・消去	合計
減損損失	235,943	39,714	-	275,657	-	275,657

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

(単位:千円)

	在庫価値 ソリューション	商品流通 プラットフォーム	インキュ ベーション	計	全社・消去	合計
当期償却額	-	115,135	-	115,135	0	115,135
当期末残高	-	276,154	-	276,154	0	276,154

(注) 「全社・消去」の金額は、報告セグメントに帰属しない全社資産に係る当期償却額、未償却残高であります。

当連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

(単位:千円)

	在庫価値 ソリューション	商品流通 プラットフォーム	インキュ ベーション	計	全社・消去	合計
当期償却額	-	109,427	2,652	112,079	331	112,410
当期末残高	-	169,991	-	169,991	16,906	186,897

(注) 「全社・消去」の金額は、報告セグメントに帰属しない全社資産に係る当期償却額、未償却残高であります。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)及び当連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員	武永修一			当社代表取締役	(被所有) 直接 39.79 間接 9.20	当社代表取締役	新株予約権 の行使 (注)2	45,780	新株予約権	3,721

(注) 1. 上記の金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておりません。

2. 新株予約権の行使取引は、2016年1月20日に発行決議がなされた第11回新株予約権の権利行使によるものであります。

当連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の連結子会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
1株当たり純資産額	782.42円	528.08円
1株当たり当期純利益	41.27円	17.20円
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	40.61円	16.37円

(注) 1. 1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当連結会計年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	423,120	177,553
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	423,120	177,553
普通株式の期中平均株式数(株)	10,252,911	10,322,423
潜在株式調整後1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額 (千円)	-	-
普通株式増加数(株)	166,843	521,306
(うち新株予約権(株))	(166,843)	(521,306)
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 り当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	-	-

2. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (2020年9月30日)	当連結会計年度 (2021年9月30日)
純資産の部の合計額(千円)	8,089,511	5,458,041
純資産の部の合計額から控除する金額(千円)	12,991	6,968
(うち新株予約権(千円))	(6,968)	(6,968)
(うち非支配株主持分(千円))	(6,023)	(-)
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	8,076,519	5,451,073
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式 の数(株)	10,322,467	10,322,410

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,133,332	1,000,000	0.42	-
1年以内に返済予定の長期借入金	337,108	319,976	0.51	-
1年以内に返済予定のリース債務	1,757	1,817	0.03	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	698,409	378,433	0.63	2023年～2025年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	5,997	4,179	0.03	2023年～2025年
合計	2,176,603	1,704,406	-	-

(注) 1. 平均金利については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金及びリース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
長期借入金	215,087	99,996	63,350	-
リース債務	1,880	1,381	847	71

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	2,959,525	4,643,374	6,399,775	8,384,968
税金等調整前四半期(当期)純利益(千円)	1,268,143	734,385	630,826	359,412
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益(千円)	936,975	525,349	429,390	177,553
1株当たり四半期(当期)純利益(円)	90.77	50.89	41.60	17.20

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失( ) (円)	90.77	39.88	9.30	24.40

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年9月30日)	当事業年度 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	1,998,222	1,865,675
受取手形及び売掛金	213,126	208,330
営業投資有価証券	7,314,909	3,063,888
仕掛品	10,523	2,181
貯蔵品	464	470
前払費用	90,837	102,185
立替金	<sup>1</sup> 736,443	<sup>1</sup> 547,048
未収入金	3,805	70,921
短期貸付金	9,965	9,965
その他	<sup>1</sup> 5,515	<sup>1</sup> 23,197
貸倒引当金	257,806	40,865
流動資産合計	10,126,007	5,853,000
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物	49,635	42,410
工具、器具及び備品	21,112	14,502
リース資産	5,867	4,522
有形固定資産合計	76,615	61,435
<b>無形固定資産</b>		
のれん	0	16,906
商標権	1,370	1,138
ソフトウェア	253,270	190,562
ソフトウェア仮勘定	9,531	3,463
無形固定資産合計	264,172	212,071
<b>投資その他の資産</b>		
関係会社株式	1,444,553	1,355,118
長期貸付金	44,175	53,057
敷金	140,279	135,129
その他	1,129	200
貸倒引当金	-	19,008
投資その他の資産合計	1,630,138	1,524,497
固定資産合計	1,970,926	1,798,004
資産合計	12,096,934	7,651,005

(単位：千円)

	前事業年度 (2020年9月30日)	当事業年度 (2021年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	<sup>1</sup> 43,226	<sup>1</sup> 34,189
短期借入金	<sup>2</sup> 1,133,332	<sup>2</sup> 1,000,000
1年内返済予定の長期借入金	322,746	319,976
リース債務	1,757	1,817
未払金	157,043	156,790
未払費用	2,963	2,146
未払法人税等	345,687	11,228
未払消費税等	10,928	11,819
前受金	70,731	104,733
預り金	6,850	7,386
ポイント引当金	1,065	878
その他	1,823	16,101
流動負債合計	2,098,155	1,667,067
固定負債		
長期借入金	698,409	378,433
繰延税金負債	1,685,970	406,160
リース債務	5,997	4,179
その他	<sup>1</sup> 1,762	<sup>1</sup> 1,436
固定負債合計	2,392,139	790,210
負債合計	4,490,294	2,457,278
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	884,082	884,082
資本剰余金		
資本準備金	883,952	883,952
その他資本剰余金	3,893	3,893
資本剰余金合計	887,845	887,845
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,621,204	1,975,616
利益剰余金合計	1,621,204	1,975,616
自己株式	203,171	203,380
株主資本合計	3,189,961	3,544,164
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	4,409,708	1,642,593
評価・換算差額等合計	4,409,708	1,642,593
新株予約権	6,968	6,968
純資産合計	7,606,639	5,193,726
負債純資産合計	12,096,934	7,651,005



【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度		当事業年度	
	(自 至	2019年10月1日 2020年9月30日)	(自 至	2020年10月1日 2021年9月30日)
売上高	<sup>1</sup>	3,644,795	<sup>1</sup>	3,884,167
売上原価	<sup>1</sup>	2,068,775	<sup>1</sup>	1,766,288
売上総利益		1,576,020		2,117,879
販売費及び一般管理費	<sup>1, 2</sup>	1,145,497	<sup>1, 2</sup>	1,341,683
営業利益		430,522		776,195
営業外収益				
受取利息	<sup>1</sup>	7,529	<sup>1</sup>	10,447
為替差益		-		193
助成金収入		665		570
その他		1,433		233
営業外収益合計		9,628		11,443
営業外費用				
支払利息		8,470		9,568
為替差損		334		-
社債発行費償却		931		-
控除対象外消費税等		2,018		8,224
その他		96		23
営業外費用合計		11,851		17,817
経常利益		428,299		769,822
特別利益				
抱合せ株式消滅差益		-		1,773
新株予約権戻入益		92		-
特別利益合計		92		1,773
特別損失				
減損損失		41,615		251,065
子会社株式評価損		-		92,224
その他		-		0
特別損失合計		41,615		343,289
税引前当期純利益		386,775		428,306
法人税、住民税及び事業税		384,391		129,205
法人税等調整額		186,239		55,310
法人税等合計		198,152		73,894
当期純利益		188,623		354,411

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)		当事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
労務費	1	233,329	19.0	209,572	15.4
経費		991,717	81.0	1,146,914	84.6
合計		1,225,047	100.0	1,356,487	100.0
商品売上原価		273,675		5,688	
営業投資売上原価		716,312		557,656	
他勘定振替高	2	146,259		153,543	
売上原価		2,068,775		1,766,288	

1. 主な内訳は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
広告宣伝費(千円)	246,866	444,870
業務委託費(千円)	250,457	243,970
外注費(千円)	145,736	126,325
保守料(千円)	102,296	126,170
減価償却費(千円)	122,601	119,444
地代家賃(千円)	52,444	57,935

2. 他勘定振替高の内容は次のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
ソフトウェア仮勘定(千円)	149,791	148,865
その他(千円)	3,531	4,678
合計(千円)	146,259	153,543

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金合計	その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計
当期首残高	861,157	861,027	3,893	864,920	1,432,581	1,432,581
当期変動額						
新株の発行	22,925	22,925		22,925		
当期純利益					188,623	188,623
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						
当期変動額合計	22,925	22,925	-	22,925	188,623	188,623
当期末残高	884,082	883,952	3,893	887,845	1,621,204	1,621,204

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	203,171	2,955,488	9,385	9,385	7,130	2,953,233
当期変動額						
新株の発行		45,850				45,850
当期純利益		188,623				188,623
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			4,419,094	4,419,094	162	4,418,932
当期変動額合計	-	234,473	4,419,094	4,419,094	162	4,653,405
当期末残高	203,171	3,189,961	4,409,708	4,409,708	6,968	7,606,639

当事業年度(自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本					
	資本金	資本剰余金			利益剰余金	
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金合計	その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計
当期首残高	884,082	883,952	3,893	887,845	1,621,204	1,621,204
当期変動額						
当期純利益					354,411	354,411
自己株式の取得						
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)						
当期変動額合計	-	-	-	-	354,411	354,411
当期末残高	884,082	883,952	3,893	887,845	1,975,616	1,975,616

	株主資本		評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	203,171	3,189,961	4,409,708	4,409,708	6,968	7,606,639
当期変動額						
当期純利益		354,411				354,411
自己株式の取得	208	208				208
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			2,767,115	2,767,115	-	2,767,115
当期変動額合計	208	354,202	2,767,115	2,767,115	-	2,412,912
当期末残高	203,380	3,544,164	1,642,593	1,642,593	6,968	5,193,726

【注記事項】

(重要な会計方針)

(1) 資産の評価基準及び評価方法

有価証券

- ・ 子会社株式 移動平均法による原価法を採用しております。
- ・ その他有価証券(営業投資有価証券を含む)

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法を採用しております。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

なお、投資事業有限責任組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

たな卸資産

- ・ 仕掛品  
個別法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)を採用しております。
- ・ 貯蔵品  
移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	10年
工具、器具及び備品	2年～15年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

自社利用のソフトウェア	社内における利用可能期間(5年以内)
商標権	10年
その他の無形固定資産	8年

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額については、リース契約上の残価保証の取決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零とする定額法を採用しております。

(3) 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

#### ポイント引当金

会員プロモーションのために付与したポイントの使用に備えるため、当事業年度末において将来利用されると見込まれるポイントに対してその費用負担額をポイント引当金として計上しております。

#### (4) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、効果の発現する期間を合理的に見積り(5年)、当該期間にわたり均等償却しております。

#### (5) その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

##### 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は、当事業年度の費用として処理しております。

#### (重要な会計上の見積り)

翌事業年度の財務諸表に重要な影響を及ぼすリスクがある会計上の見積りはありません。

#### (表示方法の変更)

##### (「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用)

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を当事業年度の年度末に係る財務諸表から適用し、財務諸表に重要な会計上の見積りに関する注記を記載しております。ただし、当該注記においては、当該会計基準第11項ただし書きに定める経過的な取扱いに従って、前事業年度に係る内容については記載しておりません。

#### (追加情報)

##### (新型コロナウイルス感染症の影響について)

新型コロナウイルス感染症の影響に関して、当社では、各事業拠点において、厳重な対策を実施した上で事業活動を継続しており、当社の業績への影響は限定的であると見込んでおります。

新型コロナウイルス感染症は、企業活動に広範な影響を与える事象であり、また、今後の広がり方や収束時期等を予測することは困難であります。当社では、外部の情報源に基づき、新型コロナウイルス感染症の影響を織り込んだ結果、その影響は軽微であると考えております。

##### (従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い等の適用)

「従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与する取引に関する取扱い」(実務対応報告第36号 平成30年(2018年)1月12日。以下「実務対応報告第36号」という。)等の適用日より前に従業員等に対して権利確定条件付き有償新株予約権を付与した取引については、実務対応報告第36号第10項(3)に基づいて、従来採用していた会計処理を継続しております。

#### 1. 権利確定条件付き有償新株予約権の概要

##### (1) 権利確定条件付き有償新株予約権の内容

第11回新株予約権、第12回新株予約権及び第13回新株予約権が対象となりますが、同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

##### (2) 権利確定条件付き有償新株予約権の規模及びその変動状況

第11回新株予約権、第12回新株予約権及び第13回新株予約権が対象となりますが、同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

## 2. 採用している会計処理の概要

### (権利確定日以前の会計処理)

- (1) 権利確定条件付き有償新株予約権の付与に伴う従業員等からの払込金額を、純資産の部に新株予約権として計上する。
- (2) 新株予約権として計上した払込金額は、権利不確定による失効に対応する部分を利益として計上する。

### (権利確定日後の会計処理)

- (3) 権利確定条件付き有償新株予約権が権利行使され、これに対して新株を発行した場合、新株予約権として計上した額のうち、当該権利行使に対応する部分を払込資本に振り替える。
- (4) 権利不行使による失効が生じた場合、新株予約権として計上した額のうち、当該失効に対応する部分を利益として計上する。この会計処理は、当該失効が確定した期に行う。

(不適切な会計処理について)

当社は以下のとおり、不適切な会計処理が発生していた事実を認識致しました。

当社は、連結完全子会社である株式会社SynaBiz（以下、「当該連結子会社」といいます。）において2022年9月期を含む複数事業年度に渡って不適切な取引及び不適切な会計処理が行われていた疑念があることを認識いたしました。そのため、2022年10月21日に外部の弁護士及び公認会計士により構成される特別調査委員会を設置して調査を進めてまいりました。

その結果、2023年1月13日に同委員会より調査報告書を受領し、当社における収益の過大計上及び収益の先行計上、費用の繰延べ等の事実が判明しました。

このため、当社は、過去に提出済みの有価証券報告書に記載されております財務諸表で対象となる部分について訂正を行い、2023年1月31日に訂正報告書を提出いたしました。

上記訂正による、各事業年度における財務数値への影響は、下記のとおりです。

(単位：千円)

決算年月	2019年9月期	2020年9月期	2021年9月期	2022年9月期
売上高	-	-	4,150	6,900
販売費及び一般管理費	-	-	4,150	6,900
営業利益	-	-	-	-
当期純利益	-	-	-	-
総資産額	-	-	-	-
純資産額	-	-	-	-

(貸借対照表関係)

1. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示されたものを除く)

	前事業年度 (2020年9月30日)	当事業年度 (2021年9月30日)
短期金銭債権	738,744千円	549,359千円
短期金銭債務	1,907 "	8,363 "
長期金銭債務	1,762 "	1,436 "

2. 運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と当座貸越契約を締結しております。

当座貸越契約に係る借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (2020年9月30日)	当事業年度 (2021年9月30日)
当座貸越極度額	1,200,000千円	1,200,000千円
借入実行残高	1,000,000 "	1,000,000 "
差引額	200,000 "	200,000 "



(損益計算書関係)

1 関係会社との営業取引及び営業取引以外の取引の取引高の総額

	前事業年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
営業取引による取引高		
売上高	353,171千円	225,675千円
売上原価	17 "	19,408 "
販売費及び一般管理費	6,018 "	19,366 "
営業取引以外の取引高	6,640 "	9,694 "

2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度56%、当事業年度59%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度44%、当事業年度41%であります。

主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)	当事業年度 (自 2020年10月1日 至 2021年9月30日)
給与手当	264,275千円	336,615千円
広告宣伝費	135,045 "	185,789 "
業務委託費	127,604 "	119,125 "
減価償却費	13,453 "	15,919 "
のれん償却費	0 "	331 "
貸倒引当金繰入額	131,945 "	32,429 "
ポイント引当金繰入額	400 "	187 "

(有価証券関係)

子会社株式は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、子会社株式の時価を記載しておりません。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりであります。

(単位：千円)

区分	前事業年度 (2020年9月30日)	当事業年度 (2021年9月30日)
子会社株式	1,444,553	1,355,118
営業投資有価証券に含まれる子会社株式	295,914	461,405

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2020年9月30日)	当事業年度 (2021年9月30日)
繰延税金資産		
減価償却超過額	31,436千円	96,177千円
のれん償却超過額	2,415 "	- "
投資有価証券評価損	213,430 "	306,968 "
子会社株式評価損	142,662 "	12,293 "
貸倒引当金	78,940 "	18,333 "
その他	47,820 "	43,780 "
繰延税金資産小計	516,707千円	477,553千円
評価性引当額	253,741 "	159,279 "
繰延税金資産合計	262,966千円	318,274千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	1,948,935千円	724,435千円
繰延税金負債合計	1,948,935 "	724,435 "
繰延税金負債の純額	1,685,970千円	406,160千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (2020年9月30日)	当事業年度 (2021年9月30日)
法定実効税率	30.6%	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.7 "	4.1 "
住民税均等割	0.6 "	0.5 "
のれん償却	0.7 "	0.0 "
評価性引当額の増減	18.7 "	13.7 "
所得拡大促進税制による税額控除	0.1 "	4.0 "
その他	0.0 "	0.3 "
税効果会計適用後の法人税等の負担率	51.2%	17.3%

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	期首帳簿 価額 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期償却額 (千円)	期末帳簿 価額 (千円)	減価償却 累計額 (千円)	期末取得 原価 (千円)
有形固定資産							
建物	49,635	-	-	7,225	42,410	29,845	72,255
工具、器具及び備品	21,112	587	0	7,197	14,502	113,460	127,962
リース資産	5,867	-	-	1,344	4,522	2,934	7,457
有形固定資産計	76,615	587	0	15,767	61,435	146,239	207,675
無形固定資産							
のれん	0	17,238	-	331	16,906	-	-
商標権	1,370	-	-	232	1,138	-	-
ソフトウェア	253,270	373,136	316,480 (221,504)	119,363	190,562	-	-
ソフトウェア仮勘定	9,531	192,282	198,351 (29,561)	-	3,463	-	-
無形固定資産計	264,172	582,657	514,831 (251,065)	119,927	212,071	-	-

(注) 1. 当期増加額のうち主なものは以下のとおりであります。

資産の種類	内容及び金額
ソフトウェア	ソフトウェア仮勘定からの振替高 168,790 千円
ソフトウェア仮勘定	当社サービス機能追加に伴う開発費用 192,282 千円

2. 当期減少額のうち主なものは以下のとおりであります。

資産の種類	内容及び金額
ソフトウェア	減損損失 221,504 千円
ソフトウェア仮勘定	ソフトウェア勘定への振替高 168,790 千円
ソフトウェア仮勘定	減損損失 29,561 千円

3. 「当期減少額」欄の( )内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金(流動資産)	257,806	40,865	257,806	40,865
貸倒引当金(投資その他の資産)	-	19,008	-	19,008
ポイント引当金	1,065	878	1,065	878

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	10月1日から9月30日まで
定時株主総会	12月中
基準日	9月30日
剰余金の配当の基準日	3月31日、9月30日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区霞が関三丁目2番5号 株式会社アイ・アール ジャパン 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区霞が関三丁目2番5号 株式会社アイ・アール ジャパン
取次所	-
買取手数料	株式の売買の委託にかかる手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告の方法により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="https://aucfan.co.jp/">https://aucfan.co.jp/</a>
株主に対する特典	株主優待制度 1. 対象株主様 毎年9月末日現在の株主名簿に記載又は記録された当社株式300株(3単元)以上保有株主様を対象といたします。 2. 株主優待内容 (1) 所有株式数300株以上500株未満 5,000円相当の廃棄ロス削減セット又はNETSEAクーポン (2) 所有株式数500株以上1,000株未満 7,000円相当の廃棄ロス削減セット又はNETSEAクーポン (3) 所有株式数1,000株以上 15,000円相当の廃棄ロス削減セット又はNETSEAクーポン 3. 株主優待の利用条件 クーポンコードはご選択に応じて、「廃棄ロス削減セット」又は当社子会社である株式会社SynaBizが運営する「NETSEA」での仕入れにおいて割引券(事業者限定)としてご利用いただけるクーポンのいずれかと交換することができます。

(注) 当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない旨、定款に定めております。

会社法第189条第2項各号に掲げる権利

会社法第166条第1項の規定による請求をする権利

株主の有する株式数に応じて募集株式の割当及び募集新株予約権の割当を受ける権利

## 第7 【提出会社の参考情報】

### 1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度(第14期)(自 2019年10月1日 至 2020年9月30日)2020年12月23日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2020年12月23日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

(第15期第1四半期)(自 2020年10月1日 至 2020年12月31日)2021年2月12日関東財務局長に提出。

(第15期第2四半期)(自 2021年1月1日 至 2021年3月31日)2021年5月14日関東財務局長に提出。

(第15期第3四半期)(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)2021年8月13日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

2020年12月23日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく臨時報告書であります。

2021年7月27日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第7号の3(吸収合併の決定)の規定に基づく臨時報告書であります。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の監査報告書

2023年1月31日

株式会社オークファン  
取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

東京都千代田区

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 木村直人 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 橋本剛 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 渡部幸太 印

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社オークファンの2020年10月1日から2021年9月30日までの連結会計年度の訂正後の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益及び包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社オークファン及び連結子会社の2021年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

1. 商品流通プラットフォーム事業における直送取引に係る売上高及び受取手数料の実在性、期間帰属の適切性及び表示の妥当性	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>株式会社オークファンの当連結会計年度の連結損益計算書には、【注記事項】（セグメント情報等）に記載されているとおり、商品流通プラットフォーム事業の外部顧客への売上高が、4,986百万円計上されており、これは連結売上高の59.4%を占めている。また、【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】 キャッシュ・フローの状況に記載のとおり、営業外収益には、太陽光発電及び蓄電池に関する取引による受取手数料が49,894千円計上されている。</p> <p>売上高は、実現主義の原則に基づき、財の引渡し完了し、かつ、対価が成立したと判断される時点で認識される。一方で、形式的に商流に介在しただけの取引である場合、会社は、資金取引として扱い、決済時点で受取手数料を認識することとしている。</p> <p>商品流通プラットフォーム事業においては、自社から直接顧客に商品の発送を行うケースのみならず、仕入先から顧客に対して直接商品を発送するいわゆる直送取引を行うケースも存在する。</p> <p>直送取引では、会社が顧客に商品を直接発送する取引に比べ、商品の移動を把握しにくいという性質があることから商品を納品した日付を直接確認することが困難な場合がある。また、代理人取引に該当する場合には、売上高の総額表示と純額表示の判断を誤るリスク、形式的に商流に介在しただけの取引である場合には、売上高と受取手数料の表示区分の判断を誤るリスクもある。</p> <p>さらに、これらの取引の多くは、1取引単位当たりの取扱高が多額となっており、連結財務諸表に与える影響が大きい。</p> <p>そのため、主要な経営指標である売上高について、特定の目標を達成するために、売上高の架空計上及び先行計上が行われる固有のリスク並びに売上高の表示方法の判断を誤る固有のリスクがあるため、重要な虚偽表示リスクは高いと評価している。</p> <p>以上から、当監査法人は、商品流通プラットフォーム事業の売上高のうち、直送取引に係る売上高及び受取手数料の実在性、期間帰属の適切性及び表示の妥当性について監査上の主要な検討事項としている。</p>	<p>当監査法人は、左記売上取引に対して、主に以下の手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直送取引に関連する内部統制の整備状況及び運用状況の評価</li> <li>・売上明細表から抽出した直送取引について、契約書、注文書、物品受領書又は検収書、運送伝票、運送指図の証跡、運送会社からの請求書、仕入先からの納品書、入金明細との突合の実施</li> <li>・売掛金について取引先に対する残高確認手続の実施</li> <li>・期末後の入金のレビュー及びヒアリング、元帳通査による期末日後の返品の有無の確認を含むカットオフ・テスト手続の実施</li> <li>・直送取引への関与が、事業上合理的であるかの検討のため、事業部責任者、経営者とのディスカッションを実施</li> <li>・代理人取引や形式的に商流に介在しただけの取引の有無の検討のため、運送伝票、運送指図の証跡、運送会社からの請求書、入金明細の確認、及び、事業部責任者のヒアリング、並びに、表示の妥当性の検討</li> <li>・会社の当連結会計年度の連結財務諸表において重要性がないため訂正を行っていなかった未修正事項にかかる訂正仕訳の妥当性の検討、及び、訂正報告書への反映の妥当性の検討</li> </ul>



2. 不適切な会計処理への対応	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>注記事項（追加情報）に記載のとおり、会社は、外部指摘を契機として、連結子会社である株式会社SynaBizにおける商品流通プラットフォーム事業の法人向け卸販売に関して不適切な取引について社内調査を進めたところ、同事業における取引の一部に経済的実態を欠く架空の商品取引（以下、「架空取引」という。）の存在が発覚した。これにより、会社は、2022年10月21日に外部の弁護士及び公認会計士により構成される特別調査委員会を設置し、事実関係の調査、類似事象の有無の確認及びその会計処理の適否の検証等に関する調査を開始し、2023年1月13日に同委員会より調査報告書を受領した。</p> <p>その結果、会社は、特別調査委員会の調査報告に基づき、連結子会社である株式会社SynaBizにおける循環取引による架空の売上計上、売上の総額表示の誤り及び物流経費の先送り、並びに、会社における広告売上の水増し計上及び前倒し計上という不適切な会計処理があったことを認識した。</p> <p>会社は、これらの事実を認識したことを受け、過年度及び当連結会計年度の会計処理の修正を行い、2023年1月31日に2019年9月期から2022年9月期第3四半期までの有価証券報告書及び四半期報告書の訂正報告書を提出した。</p> <p>なお、上記の訂正に伴う過年度及び当連結会計年度の連結財務諸表への影響額は、連結財務諸表の【注記情報】（追加情報）に記載されている。</p> <p>不適切な会計処理が適切に処理され、連結財務諸表の開示内容が適切に訂正されているかどうかを確かめるためには、不適切な会計処理の内容及び発生原因、不適切な会計処理が行われている範囲及び類似した事象の有無、関連する他の勘定科目や開示への影響等を慎重に検討する必要がある。そのため、当監査法人は当該事項を監査上の主要な検討事項に該当するものと判断した。</p>	<p>当監査法人は、会社及び連結子会社である株式会社SynaBizにおける不適切な会計処理が網羅的に把握され、適切に訂正等の処理がなされているかどうかを確かめるために、主として以下の監査手続を実施した。</p> <p>不適切な会計処理が網羅的に把握されているかどうかを確かめるため、特別調査委員会の作成した調査報告書の信頼性を次の手続により確かめた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査委員の適性、能力及び客観性の評価</li> <li>・デジタル・フォレンジック調査の適切性の評価</li> <li>・調査の範囲、実施した手続、調査結果及びその根拠の評価</li> <li>・調査作業の一部についての再実施</li> </ul> <p>類似の不適切な会計処理による重要な虚偽表示が存在していないことを確かめるため、次の手続を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・調査によって識別された不適切な会計処理の特徴・要因の分析</li> <li>・当該分析結果に基づく他の収益認識の不正リスクの見直し、仕訳テスト、不適切な会計処理と類似する特徴・要因を有する取引について契約書、注文書、検収書、履行義務の充足の確認できる資料及び入金明細との整合性の確認</li> </ul> <p>過年度及び当連結会計年度の不適切な会計処理の訂正、並びに、会社の過年度の連結決算において重要性がないため訂正を行っていなかった他の未修正事項の訂正等の訂正仕訳を入手し、必要な訂正処理が網羅的かつ正確に行われ、過年度及び当連結会計年度の有価証券報告書、四半期報告書に係る各訂正報告書に正確に反映されていることを確認した。</p>

#### その他の事項

有価証券報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の連結財務諸表に対して2021年12月23日に監査報告書を提出しているが、当該訂正に伴い、訂正後の連結財務諸表に対して本監査報告書を提出する。

#### 連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家と

しての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

## 独立監査人の監査報告書

2023年1月31日

株式会社オークファン  
取締役会 御中

### 監査法人アヴァンティア

東京都千代田区

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 木村直人 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 橋本剛 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 渡部幸太 印

### 監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社オークファンの2020年10月1日から2021年9月30日までの第15期事業年度の訂正後の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社オークファンの2021年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

### 監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

不適切な会計処理への対応	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項「2. 不適切な会計処理への対応」と実質的に同一の内容であるため、記載を省略する。 なお、訂正に伴う過年度及び当事業年度の財務諸表への影響額は、財務諸表の【注記事項】（追加情報）に記載されている。	連結財務諸表の監査報告書において、「2. 不適切な会計処理への対応」が監査上の主要な検討事項に該当すると判断し、監査上の対応について記載している。 当該記載内容は、財務諸表監査における監査上の対応と実質的に同一の内容であることから、監査上の対応に関する具体的な記載を省略する。

## その他の事項

有価証券報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の財務諸表に対して2021年12月23日に監査報告書を提出しているが、当該訂正に伴い、訂正後の財務諸表に対して本監査報告書を提出する。

### 財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

- (注) 1. 上記の監査報告書の原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。